

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	A	子育て世代に選ばれる地域の創造	プロジェクト	2	教育再生による確かな成長の支援	施策	1	特色ある教育による知・徳・体の向上
目的	本市の教育環境や地域資源を活用した「時代の変化に対応した能力と学力の向上」、「規則正しい生活習慣の定着」、「社会や地域の中での豊かな体験・経験の充実」等の事業を地域と一体となって推進することにより、子どもたちの知・徳・体の成長を支援します。							

2 施策の指標における成果

生涯学習部に関する指標なし

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	・青少年育成施設運営事業は、施設を現状維持とした場合、所有者との協議が必要であり、また、市も応分の負担が必要となることが見込まれることから、重点化事業に位置付け、事業の費用対効果を検討の上、存続又は廃止(他の民間団体へ委託)を決定していく。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	・青少年育成事業におけるジュニア・リーダーでの活用は、事業継続することによる人数の増加や、経験者へのスキルアップ機会の提供など、推進主体となるための支援が必要。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋		

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ③	社会や地域に親しむ心の育成	手段	子どもたちが、個性や能力を発揮し、自らの夢の実現に向けて意欲的に取り組む様々な体験学習を推進します。また、学校と家庭、地域が連携した教育体制の充実を図ることで、子どもたちの社会や地域に親しむ心を育成します。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費(千円)			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	青少年育成事業	社会教育スポーツ課	7,911	8,314	予算対応		拡充	拡大
2	青少年育成施設運営事業	社会教育スポーツ課	2,634	4,036	予算対応	○	拡充	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和3年度 事後評価

施策指標の要因分析	—
施策の定性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成センターの「見守り」を中心とした活動が定着し、子ども達が安心できる環境づくりが図られた。 ・新たな取り組みとなった「情報モラル講座」により親子でインターネット等の危険性を学ぶことで健全育成の啓発を図った。 ・「塩嶺体験学習の家」は、コロナ禍により日帰り利用としており、活発な運用が厳しい状況が続いている。利活用を含め課題を解決していく必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	青少年育成事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	青少年(小学生・中学生・高校生)				施策体系	2-1-3				
	意図	地域における児童の自主性及び社会性の向上を図るとともに、地域の活動の中心的役割を担う青少年を育成する。				新規/継続	継続				
手段	市内の子ども会育成会活動を促進するための補助金交付、次代の子ども達を牽引するリーダーを育成するジュニア・リーダー養成事業の実施及び青少年育成センターによる子ども会活動への参加				会計区分	一般					
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加		○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加 ○ミシャワカ市青少年派遣事業補助金交付(補正予算対応)		○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加 ○ながの子育て家庭優待パスポート事業発送業務						
事業費・財源	決算額	(千円)	7,911	予算額	(千円)	8,314	計画額 (千円) 予算対応				
	青少年育成委員報酬		594	青少年育成委員報酬		746					
	青少年問題協議会報酬		0	青少年問題協議会報酬		41					
	青少年健全育成事業補助金		4,899	青少年健全育成事業補助金		5,105					
	その他		2,418	その他		2,422					
	特定	0	一般	7,911	特定	0	一般	8,314	特定		一般
業務量(人工)	正規	0.78人	会計年度	0.70人	正規	0.78人	会計年度	0.70人	正規		会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> R2-3年度と中止していたジュニアリーダー養成事業は、研修内容の見直しを行い6月から事業を開催した。R4年度は13名の募集があり、全6回のうち3回が完了しており、後期は残り3回を実施する。 R3年度から実施した情報モラル講座は、R4年度は3地区(塩尻東、高出、宗賀)において実施する。前年度より多い参加者の応募があった。 隔年で行われているミシャワカ市青少年派遣事業は、今年度実施に向けて募集をかけたところ、3名の募集があった。補正予算措置や事前研修会等を行い、渡航に向けて準備を行っている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ジュニア・リーダーの卒業生の第一期生は中学3年生～高校生となっており、学校生活や私生活においても多忙であり、ジュニア・リーダーへの活動参加が難しいという意見を保護者などからいただいている。今後は卒業生の中から自発的に事業に携わっていただけるメンバーを探していく必要がある。 青少年育成委員の活動として、主にあいさつ運動、通学路やゲームセンター等の巡回、有害環境チェック運動があるが、最近では巡回活動において目立った報告がないため、育成委員の負担軽減として更なる活動回数の見直しを実施しても問題ないと思われる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 県からの依頼で「ながの子育て家庭優待パスポート」関連業務があり、パスポート更新作業分の予算計上が必要となる。通常版は14,000枚、多子世帯用は2,000枚の印刷及び発送を予定しており、印刷製本費と郵便料が新規で必要となる。 通年で実施している業務では、細かい部分の予算見直しを行い、R5年度事業費を予算要求する。

第1次評価 提案どおりとする。

第2次評価 —

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	共生推進係	職名	主任	氏名	上條 達也	連絡先(内線)	3151
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	共生推進係長	氏名	三浦 恵美子		

○評価指標

評価指標(単位)	ジュニア・リーダー養成事業卒業生(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		37	37		
実績値(事後評価)	37	37			
目標値		65	80	95	
評価指標(単位)	青少年育成センターが主催する出前講座の実施回数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		4	2		
実績値(事後評価)	0	4			
目標値		3	3	4	

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		
総合評価	B			成果	拡充
				コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 青少年育成センターを運営し、見守り、巡回活動、有害環境の排除活動に加え、新たに市内4地区で情報モラル講座を実施した。 地域における子ども会活動の活性化を図ることを目的に、毎年行っているジュニアリーダー養成事業は、コロナ禍のため中止とし、代わりに応募者とリーダー会との交流事業を行った。 令和4年度に新たに選出される青少年育成委員について、子ども育成会の役員兼務の推奨を区に依頼した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとの地道な見守り、巡回活動により、青少年の非行防止と健全育成が図られた。 情報モラル講座を実施し、インターネット等を使用する際の注意点やプログラミングの基礎などを学び、情報化社会の知識向上に寄与した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ジュニアリーダー事業などコロナ禍における活動方法について、見直しをしていく必要がある。 令和4年度に実施する青少年派遣事業については、コロナ感染症の状況を踏まえ、綿密な情報収集が必要となる。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		青少年育成施設運営事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市内外の青少年を主とした施設利用者				施策体系	2-1-3				
	意図	青少年が「社会を生きぬく力」を身につけるための体験学習の環境を提供する。				新規/継続	継続				
手段		塩嶺体験学習の家の維持管理、運営				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営		○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営		○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営						
事業費・財源	決算額	(千円)	2,634	予算額	(千円)	4,036	計画額				予算対応
	電力使用料		423	電力使用料		624					
	営繕修繕料		326	樹木管理委託料		133					
	その他		1,885	その他		3,279					
	特定	0	一般	2,634	特定	1,373	一般	2,663	特定		一般
業務量(人工)	正規	0.09人	会計年度	1.40人	正規	0.09人	会計年度	1.40人	正規		会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	塩嶺体験学習の家青少年育成団体の利用率(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0.0	0.0	
実績値(事後評価)	0.0	0.0		
目標値		70.0	70.0	70.0
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	④
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	縮小

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 施設の機能維持に必要な修繕を行った。 新型コロナにより、前年度から引き続き本館のみの運営とし、宿泊利用は受け入れず、日帰りのみの利用とした。 今後の利用について、所有者との協議は進んでいない。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ、雨漏れ等問題は生じていないが、例年、台風シーズンに問題が生じるため、状況の把握に努める。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 新年度の利用についても、新型コロナウイルスの感染状況及び施設の状態を見ながら判断する。下水処理を合併浄化槽へ転換する必要があり、多額の費用負担が見込まれる中、今後の施設運営について施設の所有者と協議し、方針を決める必要がある。R6年度には施設の賃貸借を終了し、民間の施設を利用していただくようにしたい。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、日帰りのみの利用制限を継続したため、一般利用はなかった。 施設内の建具及び消防設備の修繕を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 修繕等を実施することで、本格的な利用再開に向けて最低限の施設機能の維持が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進む中、今後の維持管理について検討する必要がある。 今後は本館のみでの運営を基本とする予定であるため、新館の休廃止についての検討が必要となる。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> 提案どおり、R5年度をもって賃貸借契約を打ち切る方向性で施設所有者と協議すること。なお、樹木管理委託料についてはR元年度～R3年度まで予算執行がないことから皆減とする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	大塩 弘嗣	連絡先(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	大塩 弘嗣		

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造	プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進	施策	1	観光の振興
目的	観光資源の効果的な発信、観光客と市民の交流支援、国際化への対応等を行うことで、外国人も含めた観光客の市内への滞在時間の延伸を図ります。また、歴史的資源を次世代へ継承すべき財産として、価値を高めるよう適切かつ持続的に保存するとともに、観光の集客核として活用していきます。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
統計 檜川地区文化施設入館者数	14,611人 R1	9,591人			15,000人
市民 奈良井・木曾平沢の重要伝統的建造物群保存地区の町並みを誇りに思う市民の割合	73.5% R2	78.3%			76.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の 適正性 (重点化や構 成の変更等につ いて)	・檜川地区文化施設運営事業を最重点化事業に位置付け、各施設を入館者が安全に見学できるよう維持管理に努める。特に、贄川関所については施設周辺の柵が倒壊しているため、早急に対応する。
役割分担の 妥当性 (市民や多様な 主体との連携 の方向性につ いて)	・重伝建地区の継続した修理修景事業は、地域振興や観光に寄与しているとともにその町並みはそこに住まう人々の誇りにもなっている。今後も行政として支援できることを見極め地域住民と協同で保存・活用を推進していく。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三		
施策担当課長	所属	文化財課	氏名	中村 琴江	所属	平出博物館	氏名	小松 学

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ②	歴史的資源の保存と活用	手段	事業費			重点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	文化財保存活用地域計画策定事業	文化財課	4,358	8,434	予算対応	△	拡充	縮小
2	重伝建整備事業	文化財課	20,747	18,508	19,973	△	現状維持	縮小
3	檜川地区文化施設運営事業	文化財課	14,060	17,362	予算対応	◎	拡充	拡大
4	平出遺跡公園事業	平出博物館	7,484	7,466	予算対応		拡充	拡大
5	埋蔵文化財保護事業	平出博物館	8,529	20,519	予算対応	○	拡充	拡大

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和3年度 事後評価

施策指標の 要因分析	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の入館者数は基準年度を大きく下回った。 ・重伝建地区の町並みを誇りに思う市民の割合が目標値を上回ることができた。これは継続的な修理修景事業や地域住民の想いや誇りにより伝統的な町並みが守られ維持できているためだと考える。
施策の 定性評価	・令和5年度文化庁認定予定の文化財保存活用地域計画策定は、行政はもとより地域総がかりで取り組み、本市の10年後を見据え、文化財保護に対する行政の方向性を定める計画であり、文化財の再認識、地域への愛着を高めるとともに、地域振興に寄与するものである。 ・本市における重伝建整備事業は継続的に実施されており、文化庁からも高い評価を得ている。引続き、所有者の理解を得ながら継続的な事業の実施により更なる地域振興や観光に寄与することが期待できる。 ・文化施設については、担当課単独事業ではなく観光課・産業政策課、観光協会などが実施している他事業と連携し総合的かつ一体的にPRする必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		文化財保存活用地域計画策定事業				担当課	文化財課		
目的	対象	文化財所有者及び管理者、文化財を活用する住民等				施策体系	4-1-2		
	意図	文化財の保存と活用に関する10年間の長期計画の作成、文化財の積極的な保存と活用の推進				新規/継続	新規		
手段		<ul style="list-style-type: none"> 文化財等の現状把握 保存と活用に関する課題の抽出と今後の方針 保存と活用に関する措置と推進体制の構築 				会計区分	一般		
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度				
	<ul style="list-style-type: none"> 文化財等の現状把握 協議会の設置及び開催 住民アンケートの実施 地域計画の作成 		<ul style="list-style-type: none"> 文化財リストの作成 協議会の開催 パブリックコメントの実施 地域計画本文の作成 計画内の措置について、庁内関係課・地元歴史関係団体から聞き取り 		<ul style="list-style-type: none"> 計画認定に向けた文化庁との調整 地域計画印刷 【文化財管理事業(評価対象外事業)に統合】 				
事業費・財源	決算額 (千円)		4,358	予算額 (千円)		8,434	計画額 (千円) 予算対応		
	協議会委員報酬		34	協議会委員報酬		121			
	普通旅費		68	普通旅費		234			
	費用弁償		62	費用弁償		161			
	計画策定業務委託料		4,180	計画策定業務委託料		7,000			
	その他		14	その他		918			
		特定	3,815	一般	543	特定	2,982	一般	5,452
業務量(人工)		正規	0.69人	会計年度	0.11人	正規	0.69人	会計年度	0.11人

○評価指標

評価指標(単位)	策定協議会の開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		1	1	
実績値(事後評価)	-	2		
目標値		2	2	2
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	④
	有効性	4	高い		
	効率性	4	高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	縮小

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 関係する部署や外部団体への聞き取りを行い、措置一覧としてまとめることができた。 策定協議会を6月に開催し、計画本文の作成を進めることができた。(序章から第4章)
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 本計画は、R5年7月の文化庁認定を予定しているが、R6年度を始期とする第六次総合計画と連動する計画とするために企画課をはじめ他部署との調整、連携が必要である。 市における地域計画案の完成は3月、その後文化庁へ申請を行うが、地域計画案は計画認定の過程において文化庁及び関係省庁などにも回覧されることになるため、R5年度も認定を得る7月までは内容等の細かな調整が必要となる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 計画認定を得るまでの調整に対応するため、来年度についても委託業務の経費を要望したい。 認定後の計画の冊子及び概要版の印刷製本費を要望する。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 塩尻市文化財保存活用地域計画作成にあたり、その内容等を協議する協議会を発足し、協議会を2回開催した。 市民や所有者の意見を計画に反映させるため、市民アンケート(回答数467件)、文化財所有者アンケート(回答数45件)を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 計画本文の作成を進めることができた。(序章から第2章) アンケートの実施により地域における幅広い「地域のお宝」や市民及び文化財所有者の意見等を抽出することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 本計画は、令和5年度に文化庁の認定を想定しているが、令和6年度を始期とする第6次総合計画と連動する計画とし、また、文化財課所管以外の事業についても、関連するものについては計画に盛り込むことが求められており、今後、関連部署をはじめとする庁内調整・連携が必要である。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> R2年度行政評価で示したとおり、計画策定に関する委託料の予算計上は今年度までとする。計画認定を得るまでの文化庁とのやり取りによる修正は、内製で進めること。 計画の冊子印刷については、庁内には電子データで共有することとし、国(文化庁等)等の冊子の提出が必須」となっている関連機関のみ印刷を認める。 							
第2次評価	-							

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	課長補佐	氏名	塩原 真樹	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		重伝建整備事業				担当課		文化財課				
目的	対象	重伝建地区内で建築物等の工事を行う者				施策体系		4-1-2				
	意図	歴史的な町並みの保存と整備を行う。				新規/継続		継続				
手段	設計監理及び工事費の補助				会計区分		一般					
					個別施設計画							
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景				○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景				○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景			
事業費・財源	決算額 (千円)		20,747		予算額 (千円)		18,508		計画額 (千円)		19,973	
	補助金		20,659		補助金		18,294		補助金		19,745	
	その他		88		その他		214		その他		228	
	特定	14,100	一般	6,647	特定	12,522	一般	5,986	特定	13,519	一般	6,454
業務量(人工)	正規	0.34人	会計年度	0.27人	正規	0.34人	会計年度	0.27人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・今年度は、奈良井2件、木曾平沢3件の修理修景事業を現在実施中。R5年度分については、奈良井1件、木曾平沢4件の修理修景事業を予定。10月の審議会を経て1月に国庫補助申請をする。R6年度以降については、奈良井地区において地元住民組織と共催で修理修景事業実施希望等に関する相談会を開催し、4件の相談を受けた。今後、10～11月にかけて同様の相談会を両地区で開催し、実施希望者のとりまとめを行う予定。
当年度に生じた新たな問題等	・急激な建築資材等の物価上昇により工事費が高騰している一方で、地区内で修理・修景事業に関する相談は多く寄せられているため、今後の事業実施希望の動向を注視していく必要がある。 ・事業実施には地元組織の協力が欠かせないが、組織の役員が数年で交代する傾向にあり、コロナウイルスの影響により行政と住民組織との会合・情報共有の機会が減少しているため、制度理解が薄れてきている。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・伝建地区の歴史的建造物が建ち並ぶ町並みを未来へ残し、現在居住されている住民の地元に対する誇りの醸成はもとより、この町並みに愛着を感じる方の移住促進、観光資源としても寄与できる事業であるため、今後も引き続き同規模の財源確保を希望する。

第1次査定	・要求どおりとする。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	課長補佐	氏名	塩原 真樹	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	建造物の修理修景(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	2	1	
実績値(事後評価)	4		
目標値	5	5	5

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	③
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・奈良井地区において修理事業を計4件実施した。 ・町並み相談会を開催し、令和4年度及び令和5年度以降に向けての修理・修景事業実施希望を取りまとめ、令和4年度実施分について文化庁に補助事業の申請を行った。
成果	・事業実施により、地区内の建造物が適切に保存され、町並み全体の歴史的風致の整備が進むことで、住民の文化財保護意識の向上や地域への愛着・誇りの醸成が図られた。 ・伝建地区が観光資源としても活用されるなど地域振興に貢献できた。
課題	・伝建地区に住む住民の高齢化や空き家の増加、伝建制度を知らない者の転入などにより、制度への理解が薄れつつある。今後も伝建制度の周知を図っていくとともに、修理修景事業の継続的な実施により、住民の歴史的町並みを守っていく意識の向上につなげていく必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	檜川地区文化施設運営事業				担当課	文化財課						
目的	対象	市民及び市外からの来館者				施策体系	4-1-2					
	意図	木曾漆器や宿場町の歴史文化等を学習する機会と場を提供する。				新規/継続	継続					
手段	各施設の運営と企画展、講座等を開催する。				会計区分	一般						
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催				○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催				○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催			
事業費・財源	決算額	(千円)	14,060	予算額	(千円)	17,362	計画額	(千円)	予算対応			
	施設管理委託料		1,070	施設管理委託料		1,062						
	営繕修繕料		893	会計年度任用職員報酬等		13,987						
	会計年度任用職員報酬等		10,139	その他		2,313						
	その他		1,958									
	特定	1,959	一般	12,101	特定	1,640	一般	15,722	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.07人	会計年度	5.45人	正規	0.07人	会計年度	5.45人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で食体験講座は中止となったが、それ以外の漆塗体験講座、塗箸漆絵付け体験は、感染症対策を講じながら実施した。 木曾漆器館に所蔵されている、国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」(3,729点)を電子データ化する入力作業を継続して行っている。 贅川関所の柵が老朽化及び腐朽により倒壊したため、緊急対策として進入禁止コーンを設置し対応した。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化や腐朽により贅川関所の北東側及び南側の柵が雨風により倒壊した。緊急的に進入禁止コーンを設置することで対応したが、柵の先が崖となっており、職員・来館者について転落の危険性が生じている。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の柵の修繕費を要望するため、コスト拡充とした。なお、人目につきにくい箇所は木材ではなく鉄材の柵にすることで長期間使用できるよう工夫を図る。 外国人観光客が多く入館する中村邸について、新たに英語版パンフレットの印刷製本費を要望する。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> 贅川関所の柵の修繕については、提案どおりの実施を認める。安全な状態で来館者が見学できるようにすること。 中村邸の英語パンフレット印刷については認めない。データでの提供を中心に情報発信すること。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	課長補佐	氏名	塩原 真樹	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	文化施設入館者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		4,284	7,593		
実績値(事後評価)	7,622	9,591			
目標値		16,500	16,500	16,500	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で食体験講座は中止となったが、それ以外の漆塗体験講座、塗箸漆絵付け体験は、感染症対策を講じながら実施した。 中村邸の中庭整備(板塀、庭石)と、贅川関所の配電盤修繕及び、展示棚の一部LED化、庭木剪定を行った。 木曾漆器館に所蔵されている、国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」(3,729点)を電子データ化する入力作業を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 4施設全体の入館者数は昨年度よりも増加した。 塗箸漆絵付け体験は実施制限を設け、約400名の方が漆塗の体験をされ、漆器製品の制作工程や漆の魅力に触れていただくことができた。 施設の補修等により、見学者の安全確保と展示資料の劣化防止を行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 贅川関所の柵の老朽化・腐朽が進んでおり、第三者及び見学者等の安全を確保するために早急な修繕が必要である。 国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」(3,729点)を電子データ化する入力作業を行っているが、点数が多く、作業工程(入力と写真の撮影と差し込み)も複数あり、時間を要している。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		平出遺跡公園事業				担当課		平出博物館			
目的	対象	市民全般				施策体系		4-1-2			
	意図	国史跡である平出遺跡を保存しながら、郷土の歴史・文化・風土を活かした体験型学習を通じたにぎわいの創出を図る。				新規/継続		継続			
手段		歴史的資源である国史跡平出遺跡を適正に保存するとともに、遺跡公園を体験型学習の場として活用し、来園者が郷土の歴史・文化・風土に親しむ機会を提供する。				会計区分		一般			
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度				
	○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理			○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理			○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催 【ひらいでの里魅力づくり事業から移管】				
事業費・財源	決算額 (千円)		7,484	予算額 (千円)		7,466	計画額 (千円) 予算対応				
	営繕修繕料		960	需用費		2,165					
	その他		6,524	その他		5,301					
	特定	212	一般	7,272	特定	300	一般	7,166	特定	一般	
業務量(人工)		正規	0.06人	会計年度	2.07人	正規	0.02人	会計年度	1.86人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・家族単位での来園を促すため、スタンプラリー形式でアドベンチャーin平出の実施をしたほか、観光協会主催の「しおり探検隊」に協力し、子どもたちが学習する機会を得られるよう努めた。 ・営繕修繕に対応している復元住居の補修は、計画的な改修及び財源の確保からR6-7年度に保存活用計画を策定し、史跡等総合活用整備事業の実施を計画している。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策及びWithコロナを見越した家族単位での学習機会の増加となるような手法を検討する必要がある。 ・復元住居の点検を職員が行っているが、来園者に安心して見学していただくため、専門業者の点検が必要である。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡公園の音声ガイドに塩尻市出身の声優を起用するため、謝礼を予算計上したい。 ・復元住居の点検費用を増額したい。

第1次評価	・平出遺跡公園は、平出博物館の今後の在り方を含めて一体的に検討する必要がある。来年度での音声ガイドの更新や復元住居の点検実施は認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	平出遺跡公園来園者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		6,954	10,431	
実績値(事後評価)	17,166	18,540		
目標値		19,200	21,600	24,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を身近なものと感じていただくため、火起こしや勾玉づくりなどの体験学習や平出遺跡や平出博物館周辺をスタンプラリー形式で巡るアドベンチャーin平出を実施した。 ・ガイドンス棟や復元住居の維持管理のための営繕修繕を実施した。
成果	・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、人数制限を設けたうえで体験学習を実施することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、学校などの団体に対して十分な対応が難しい。 ・計画的な改修計画のもと復元住居の維持管理を行うことが必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	埋蔵文化財保護事業				担当課	平出博物館						
目的	対象	市民全般				施策体系	4-1-2					
	意図	破壊される埋蔵文化財を記録として保存し、後世に伝える。				新規/継続	継続					
手段	開発事業等に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査及び整理作業を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図るとともに、劣化が進む埋蔵文化財の修復及び保存処理を行う。				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業				○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○宅地造成事業に伴う床尾中央遺跡発掘調査 ○(仮称)宗賀中央保育園園道線新設改良工事に伴う小怒田遺跡整理調査				○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○広丘東通線整備事業に伴う内畑遺跡発掘調査 ○協立病院非常用電源設備設置に伴う五日市場遺跡整理調査			
事業費・財源	決算額	(千円)	8,529	予算額	(千円)	20,519	計画額	(千円)	予算対応			
	会計年度任用職員報酬等		7,388	会計年度任用職員報酬等		17,762						
	重機借上料		532	重機借上料		1,140						
	その他		609	その他		1,617						
	特定	0	一般	8,529	特定	60	一般	20,459	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.25人	会計年度	2.34人	正規	0.30人	会計年度	0.03人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・発掘作業に従事する人員を広報を通じて公募したところ、10余名の応募があり人員の新規開拓につながった。
当年度生じた新たな問題等	・発掘作業に従事する人員の雇用の在り方について、外部委託を検討したが現在のところ近隣に受託できる業者はなく、引き続き検討を重ねる必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・R5年以降も、開発に伴う発掘調査が年間数件のペースで見込まれる。基本的に調査費用は、原因者負担の原則により全額特定財源によって賄われるため、年度ごとに特殊事情経費として歳出予算を計上したい。

第1次評価	・床尾中央遺跡は、これ以上宅地造成範囲を広げる予定はないため発掘調査を実施する必要はない。内畑遺跡、五日市場遺跡の発掘調査を実施すること。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	開発等に伴う包蔵地の確認(件)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		82	81		
実績値(事後評価)	191	228			
目標値		150	150	150	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	①
	有効性	4	高い		
	効率性	4	高い		
総合評価		A		成果	拡充
				コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・令和3年度に実施した別方遺跡の整理調査及び道路新設に伴う小怒田遺跡の発掘調査を実施した。
成果	・小怒田遺跡の発掘調査では平安時代の住居跡が2軒確認され、宗賀小学校の児童や宗賀中央保育園の園児の遺跡見学会や宗賀公民館との連携事業として発掘体験を行うなど、埋蔵文化財の啓発活動も実施できた。
課題	・発掘調査や整理調査を行うにあたり、調査に従事したことのある経験者が高齢化のため、即戦力としての人員の確保が困難になってきている。世代交代のための新たな人員の確保が必要となる。

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造	プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進	施策	2	文化・スポーツを通じたにぎわいの創出
目的	本市に根付いてきた文化資源を生かして、市民や来訪者の交流を促進するとともに、総合体育館を中心に世代を超えてスポーツに親しむ機会を提供することで、地域のにぎわいを創出します。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	文化施設入館者数	36,359人 R1	29,992人		38,000人
	スポーツ施設利用者数	434,998人 R1	386,292人		575,000人
市民	歴史文化遺産を活用した交流活動が盛んに行われていると感じる市民の割合	24.8% R2	25.0%		30.0%
	子どもから高齢者まで誰でもスポーツに取り組める環境があると感じる市民の割合	35.8% R2	42.3%		50.0%
	週1回以上スポーツ活動を行う市民の割合	31.4% R2	34.5%		40.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然博物館運営事業を最重点化事業とし、移転せずに現施設での運営を継続させることから、ソフト面を含めた施設の充実を図る。 ・体育施設管理運営事業を重点化事業とし、利用者・周辺住民の安全確保のため樹木管理経費を増額し対応する。 ・事業内容を精査し、ひらいでの里魅力づくり事業を平出遺跡公園運営事業に統合する。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然博物館運営では、自然博物館協力会員や公民館等の連携により充実した博物館活動を図りたい。 ・各スポーツ関係者がスポーツを通じたにぎわいづくりに主体的に取り組んでいるが、コロナ禍で大規模な活動が制限されてきたため、ノウハウの蓄積や担い手不足に不安がある。

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ①	文化資源を活用した交流の促進	手段	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	全国短歌フォーラム事業	社会教育スポーツ課	4,832	5,372	予算対応		拡充	現状維持
2	短歌館運営事業	文化財課	9,419	12,921	予算対応	△	現状維持	縮小
3	自然博物館運営事業	文化財課	5,671	9,577	予算対応	◎	拡充	拡大
4	自然博物館整備事業	文化財課 平出博物館	-	-	11,440	△	拡充	縮小
5	国指定文化財修理事業	文化財課	9,295	-	-	△	現状維持	縮小
6	平出博物館運営事業	平出博物館	14,377	14,956	予算対応		拡充	拡大
7	新平出博物館整備事業	平出博物館	514	29,916	435	△	現状維持	縮小
8	ひらいでの里魅力づくり事業	平出博物館	238	1,247	-	×	休廃止	皆減
9	本洗馬歴史の里運営事業	平出博物館	5,639	5,957	予算対応		拡充	拡大

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	全国短歌フォーラム事業				担当課	社会教育スポーツ課						
目的	対象	市民及び全国の短歌愛好者				施策体系	4-2-1					
	意図	短歌を通じて、日本語の美しさ、素晴らしさを全国に発信し、塩尻市をPRする。				新規/継続	継続					
手段	・全国短歌フォーラムin塩尻の開催 ・全国短歌フォーラム資料のデジタル化 ・検索・閲覧コンテンツ構築				会計区分	一般						
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第35回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化				○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第36回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化				○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第37回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化			
事業費・財源	決算額 (千円)		4,832	予算額 (千円)		5,372	計画額 (千円) 予算対応					
	資料デジタル化委託料		37	資料デジタル化委託料		100						
	全国短歌フォーラム事業負担金		3,741	全国短歌フォーラム事業負担金		3,750						
	その他		1,054	その他		1,522						
	特定	11	一般	4,821	特定	3,773	一般	1,599	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.62人	会計年度	0.70人	正規	0.62人	会計年度	0.70人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・今後の短歌フォーラムの在り方を検討するためのアンケートを実施した。この結果を取りまとめ、今後の方針を検討する基礎材料としていく。 ・小規模イベント「ティータイムに短歌を作ろう」を実施し、市内外から11名の参加があった。
当年度生じた新たな問題等	・投稿数が大幅に減となったが、はっきりした理由が分からない。募集開始当初から会場での大会を中止としたことや、募集期間が経済活動再開と重なったこと、題詠の題が難しかったことなどの推測の域を出ない。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・今年度実施したアンケートの結果を参考にしながら、今後の大会の開催、投稿歌募集、短歌イベント開催等の方針を決めていく。新年度の予算については、通常開催とし、投稿歌募集、賞の選考、作品集作成及び資料デジタル化に係る費用を計上したい。

第1次評価	・今後の方向性を出さずしてコロナ禍前と同規模のイベント開催へ戻すことはできない。R5年度にアンケート結果を踏まえてフォーラムの今後の方向性を庁内で定めて、実行委員会に諮る中で確定させること。R5年度の事業費はR4年度と同様の規模とする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	大塩 弘嗣		

○評価指標

評価指標(単位)	一般の部市内投稿者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		141	113	
実績値(事後評価)	187	141		
目標値		190	190	190
評価指標(単位)	一般の部大会参加者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		-	-	
実績値(事後評価)	-	-		
目標値		-	-	600

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等に安心して参加できる状況でないことから、第35回全国短歌フォーラムin塩尻「一般の部」及び「学生の部」のレザンホールでのフォーラムを中止とした。 ・投稿歌の募集は行い、全投稿歌を掲載した作品集を作成した。上位入賞歌には選者のコメントを掲載した。 ・第1回からの映像資料のデジタル化を進めるため、各媒体の保存形式変換テストを実施した。
成果	・前年と比べ、市内の投稿者が減となった一方、全体の投稿者数は微増となった。(一般の部投稿者数:1,296人、学生の部投稿者数:10,857人)
課題	・今後の大会の在り方について、開催内容の見直しを含め、検討していく必要がある。 ・短歌愛好者を増やしていくため、気軽に参加できる小規模の短歌イベントの開催などにより、短歌に触れていただく機会を増やしていく必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		短歌館運営事業				担当課		文化財課	
目的	対象	市民及び市外からの来館者				施策体系		4-2-1	
	意図	「短歌の里塩尻」を全国に発信するとともに、短歌を通じ芸術文化の推進を図る。				新規/継続		継続	
手段		遺品・著書等の展示と資料収集・整理保管、短歌大学・企画展の開催				会計区分		一般	
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営			○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営 ○開館30周年記念行事			○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営		
事業費・財源	決算額 (千円)		9,419	予算額 (千円)		12,921	計画額 (千円) 予算対応		
	講師謝礼		678	講師謝礼		595			
	営繕修繕料		417	営繕修繕料		2,405			
	害虫駆除委託料		484	会計年度任用職員報酬等		6,169			
	会計年度任用職員報酬等		4,812	その他		3,752			
	その他		3,028						
	特定	298	一般	9,121	特定	263	一般	12,658	特定
業務量(人工)		正規	0.08人	会計年度	2.57人	正規	0.08人	会計年度	2.57人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、コロナ対策を講じたうえで通常開館し、短歌大学及び企画展等を開催している。なお、今年度は短歌館開館30周年を迎えるため、10月に記念シンポジウムを開催する予定である。 ・4月に登録有形文化財島木赤彦寓居の移築記念式典を開催。以後、短歌館の関連施設として一般公開している。 ・短歌館南面の外壁塗装工事を実施した。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・館内非常灯のバッテリーが切れていることが判明したため、今年度予算で対応予定。 ・短歌館および島木赤彦寓居の情報発信や活用を積極的に実施していく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・消火器の使用期間がR5年度中に切れしまい入れ替えが必要となるため、消耗品費の増額を要望する。 ・応接室のエアコンが故障しているため、取り換え工事を要望する。

○評価指標

評価指標(単位)	企画展・講座等の開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		5	6	
実績値(事後評価)	5	14		
目標値		15	15	15
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・春・夏・秋の企画展、特別講演会、塩尻短歌大学(全4回)、百人一首講座(全5回)、春待ちコンサートなどの事業を実施した一方、新型コロナウイルスの影響により百人一首大会を中止とした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響が続く中、感染症対策を講じながら、ほぼ予定通りの事業を実施することができた。その結果、昨年度に比べ若干の入館者増につながり、短歌の魅力を発信することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国登録文化財 島木赤彦寓居の移築に伴い、短歌館と連携した短歌文化の情報発信ができる運用・取り組みの検討が必要である。 ・令和4年度に迎える短歌館開館30周年記念事業の検討が必要である。

第1次評価	・短歌館の来館者数や応接室の使用頻度等を考慮して、費用対効果が見込めないため応接室のエアコン取り換えは認めない。											
第2次評価	—											
作成担当者	生涯学習部		文化財課		文化財係		職名	主事	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長		氏名	中村 琴江		担当係長	文化財係長		氏名	塩原 真樹		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	自然博物館運営事業				担当課	文化財課					
目的	対象	市民及び市外からの来館者				施策体系	4-2-1				
	意図	自然を学ぶ学習の機会と場を提供する。				新規/継続	継続				
手段	企画展、自然科学講座、自然観察会等の開催、館報の発行を行う。				会計区分	一般					
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営		○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営		○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営						
事業費・財源	決算額	(千円)	5,671	予算額	(千円)	9,577	計画額 (千円) 予算対応				
	印刷製本費		415	印刷製本費		370					
	標本同定作業等委託料		1,394	標本同定作業等委託料		1,400					
	企画展示等委託料		100	企画展示等委託料		350					
	会計年度任用職員報酬等		2,637	会計年度任用職員報酬等		6,307					
	その他		1,125	その他		1,150					
	特定	346	一般	5,325	特定	700	一般	8,877	特定		一般
業務量(人工)	正規	0.07人	会計年度	2.16人	正規	0.00人	会計年度	3.00人	正規		会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> R4年度収蔵標本のデータベース化(S-NET登録:サイエンスミュージアムネット)は、6,400件の見込みである。 専門知識を持つ職員の採用はできなかったが、自然に興味のある会計年度任用職員の採用や元館長の協力を得ながら講座、観察会等を実施した。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 自然博物館の移転・整備を行う上で、昆虫標本を主とする収蔵品の扱い方や展示・保管の方法などについて、専門的知識が求められる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 今後も収蔵標本のデータベース化を継続的に行うため、本年度と同額の標本同定作業等委託料を要望する。 博物館整備や展示、運営に携わる専門職員(自然系分野の学問を修了した学芸員資格取得者もしくは研究者)の採用を強く要望する。 2年に1度、紀要の作成を行っており、令和5年度は作成年度となるため、印刷製本費の増額を要望する。 人件費以外は現状維持だが、専門職員の採用を要望しておりその経費を含めて、今後の方向性は①とした。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> 紀要を含めた印刷製本費は、前回紀要を作成したR3年度の決算額と同額の予算計上とする。金額の範囲内で各種資料の印刷を行うこと。 自然博物館整備事業にもあるとおり、Wi-Fi設置をR5年度には実施しないため、アクセスポイント使用料の予算計上は見送る。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主事	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	自然博物館の入館者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		2,335	4,996		
実績値(事後評価)	7,718	2,335			
目標値		6,800	6,800	6,800	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 小坂田公園再整備工事により6月末までの開館となった。(入館者2,333人) 新型コロナウイルスの影響で中止となった事業(4回)もあるが、企画展を1回、講座・観察会を5回実施した。 収蔵標本の同定作業及びデータベース化を行った。(R2年から継続)
成果	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数を昨年同時期(4~6月)と比較すると1,388人増加となっている。(昨年同時期:945人) 国立科学博物館が主管するサイエンスミュージアムネットに5,068件の登録申請を行い(合計8,113件)、収蔵資料の情報発信ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵標本のデータベース化は、収蔵標本が約55,000点あることから今後も継続的な取り組みが必要である。 魅力ある博物館の運営をしていくためには、収集保管・調査研究・教育普及・展示公開といった事業をトータルで実施していく必要があり、自然分野の専門知識を持つ職員の配置が必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		自然博物館整備事業				担当課	文化財課・平出博物館			
目的	対象	市民全体				施策体系	4-2-1			
	意図	自然を学ぶ機会と場の提供をすることで、自然に対する正しい知識と関心を高める。				新規/継続	新規			
手段	小坂田公園内の現施設での運営を継続し、現施設の外壁改修工事と収納棚増設を実施する。					会計区分	一般			
						個別施設計画				
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
					○外壁改修工事 ○収納棚増設					
事業費・財源	決算額 (千円)		- 予算額 (千円)		- 計画額 (千円)		11,440			
					外装改修		9,053			
					収納棚増設		2,387			
業務量(人工)	正規	0.09人	会計年度	0.00人	正規	会計年度	正規	8,100	一般	3,340
	特定		一般		特定		一般		特定	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・昨年度作成した「あり方」を実現できる移転場所について、改めて検討を重ねた結果、小坂田公園レストラン棟の1階部分に移転する予定としたが、市議会及び自然博物館研究会等からは現施設での運営継続の意見があった。
当年度に生じた新たな課題等	・今後、現施設での運営を継続する場合には施設の改修が必要となる。 ①開館以来、建物の全体的な改修を行っていないため外周及び屋根の一部が腐食している。 ②来館者の調べ学習及び同定作業の効率化を図るためWi-Fi環境の整備が必要。 ③資料の収納スペースの不足。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・自然博物館の移転については、移転先及び事業費を精査する中で、担当部では移転せずに現在の場所で開館を継続したい。今後も引き続き博物館として利用していくために外壁及び屋根の整備を希望する。 ・また、Wi-Fiを新設することで、来館者の館内での調べ学習等を推進したい。 ・収蔵庫の不足については、収蔵棚を増設することで対応。

第1次査定	・自然博物館は移転せず、現施設での運営を継続することとし、現施設の外壁改修工事と収納棚増設については実施を認める。 ・Wi-Fiアクセスポイントの新設は、収蔵標本や各標本に関する情報が整っていないことからR5年度での実施は認めない。来館者の調べ学習推進につなげるために、まずは収蔵標本のデータベース化や標本に関する情報・説明内容を充実させることに注力し、自然博物館に収蔵されている標本の強みを引き出すよう工夫すること。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	技師	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	実施設計(建築・展示)及び工事の進捗率(%)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	
実績値(事後評価)			
目標値		0	100

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の方向性	④
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・移転候補先の検討とともに、今後の自然博物館の方向性についてを示した「あり方」を作成した。あり方の作成については、住民や専門家による研究会を立ち上げ、そこでの意見等を反映させた。 ・令和4年度の事業費について、当初令和5年度の建設に向け、設計監理業務の委託料を計上していたが、想定していた場所への移転・整備の計画を中止し、検討し直すこととなったため、令和4年度の事業費を皆減した。
成果	・「自然博物館のあり方」を作成したことにより、新たな自然博物館を整備していく上での基本的な方向性を示すことができた。作成にあたり、関係者の意見も反映できたと考えている。
課題	・あり方を実現できる移転場所やそこでの整備内容、整備後の運営等について引き続き検討する。移転先については、令和4年秋を目途に方針決定する予定。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		国指定文化財修理事業				担当課		文化財課	
目的	対象	重要文化財所有者および市民				施策体系		4-2-1	
	意図	文化財の保存・活用を図り、地域の大切な財産として次世代へ継承していく。				新規/継続		継続	
手段		重要文化財建造物の修理工事等の実施				会計区分		一般	
						個別施設計画		○	
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度				
	○旧中村家住宅自火報設備設置工事								
事業費・財源		決算額 (千円)		9,295		予算額 (千円)		-	
		工事費		9,295		計画額 (千円)		-	
		特定	6,321	一般	2,974	特定		一般	
業務量(人工)		正規	0.25人	会計年度	0.17人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 重要文化財小松家住宅について、今後の修理内容等を検討した。 修理後の活用については、現在作成中の文化財保存活用地域計画内での措置(取り組み)において、学校や地域住民による活用等を図っていくこととした。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 小松家住宅の公開活用を図るには、建物の修理工事に合わせて、駐車場や建物南側の庭・水路などの周辺環境の整備を実施する必要がある。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> 修理工事を実施するにあたり、翌年度の国庫補助金申請時に必要な書類(修理の方針や工事内容、概算費用等)について専門機関への作成委託の経費を要望する。

第1次査定	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の修復等については、文化財保存活用地域計画に位置付けて実施について検討することとする。計画ができていない段階での予算計上は認めない。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	課長補佐	氏名	塩原 真樹	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	修理工事等の実施対象建造物数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	1	0	
実績値(事後評価)	1		
目標値	2	1	1

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	③
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年に国指定重要文化財となった旧中村家住宅(奈良井)について、これまで未設置だった自動火災報知設備(受信盤・発信機・感知器等)の設置工事を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 当該文化財は現在、資料館として公開しており不特定多数の方が来館している。自動火災報知設備の設置により、万が一の火災時に速やかに来館者・勤務職員に状況を発報し、避難及び初期消火の態勢をとることができ、文化財の保護と来館者の安全を担保できるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 他の重要文化財建造物について、小松家住宅は前回修理から25年以上が経過し、茅葺屋根や土壁などに経年劣化と傷みが生じており、修理工事を行う必要がある。また、令和元~2年度にかけて実施した耐震診断により、構造補強が必要との結果も出ている。これら工事の実施に向け、予算面も含めた調整及び、工事後の施設管理や公開などの活用方法についても併せて検討していく必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		平出博物館運営事業				担当課	平出博物館			
目的	対象	市民全般				施策体系	4-2-1			
	意図	文化の振興を図り、地域資源を活用した学びの機会を提供するとともに、交流活動を促進し、地域づくり人づくりに寄与する。				新規/継続	継続			
手段		地域の歴史や文化に親しみ学ぶことができるよう、平出遺跡をはじめ市内の考古・歴史遺産等を活用した事業を行う。				会計区分	一般			
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
	○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営			○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営			○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営			
事業費・財源	決算額	(千円)	14,377	予算額	(千円)	14,956	計画額 (千円) 予算対応			
	需用費		4,711	需用費		5,935				
	委託料		1,596	委託料		1,915				
	DX化事業委託料		2,475	その他		7,106				
	その他		5,595							
	特定	685	一般	13,692	特定	707	一般	14,249	特定	一般
業務量(人工)	正規	1.01人	会計年度	0.80人	正規	0.92人	会計年度	0.46人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・講座は新型コロナの感染状況に応じて開催の可否を判断し、定員を減らし予約制にて開催している。 ・DX化にて作成した資料をホームページ上で公開するとともに、希望する来館者にはタブレット端末にて実際の資料と比較できるようにした。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・アバターを活用したオンライン授業は学校の教育カリキュラムに組み込むことが難しいため、違う手法での活用を検討する必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度と同等規模の企画展や講座を開催するとともに、費用を掛けずに工夫を凝らしたイベント(ナイトミュージアムや出張展示等)を開催していくため、現状維持としたい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		1,992	2,322		
実績値(事後評価)	4,063	4,240			
目標値		4,800	5,400	6,000	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会として土曜サロンを3回開催したが、歴史大学や考古雑談についてはコロナの影響で中止した。常設展示以外には企画展3回、出張展1回開催した。 ・博物館DX化事業として、収蔵品の3Dデータを活用した映像資料を作成した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の企画展には1,766人の来場者があり、「縄文土器サミット展」は、縄文都市連絡協議会加盟都市との連携事業として開催することができた。 ・講座についてはコロナ対策として、定員を設け事前申込制により受講者を募集して開催し、117人の受講者があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講座や企画展示会については、コロナ禍に対応した事業展開が必要となる。 ・アバターを活用したオンライン授業や展示ケース内にあり細部まで見ることのできない資料を3D映像を活用して見せるなど、博物館のDX化の推進が必要。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		新平出博物館整備事業				担当課		平出博物館															
目的	対象	市民全体				施策体系		4-2-1															
	意図	後世に継承すべき文化財の適正な保護環境の構築及び文化資源を活用した交流活動の促進				新規/継続		新規															
手段	建設後60年以上が経過し、様々な管理上の課題を抱える平出博物館を、歴史的遺産の確実な保全と継承を図り、文化資源を活用した新たな交流・学習・集客の拠点として整備する。				会計区分		一般																
					個別施設計画		○																
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度														
	○基本計画策定				○不動産鑑定 ○用地測量 ○CM委託				○基本計画策定委員会の開催 ○歴まち計画策定協議会の開催 ○先進地視察														
事業費・財源	決算額 (千円)		514		予算額 (千円)		29,916		計画額 (千円)		435												
	検討委員会委員報酬		274		不動産鑑定委託料		1,600		事務費		435												
	その他		240		調査測量等委託料		11,792																
					CM委託料		14,500																
					諸経費		2,024																
特定		0		一般		514		特定		0		一般		29,916		特定		0		一般		435	
業務量(人工)		正規 1.12人		会計年度 0.00人		正規 1.97人		会計年度 0.00人		正規		会計年度											

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画策定委員会を開催し、委員会で出された意見等を反映させた。 CM(コンストラクション・マネジメント)業務委託業者をプロポーザル方式により選定した。 CM委託業者を交え、基本計画の内容確認や事業費、スケジュールの整理等を行っている。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 事業費を整理した結果、目標額と大きく乖離するため、事業内容の見直しを行うとともに、補助事業の活用を検討した。しかし、補助事業を活用するためには歴まち計画を作成する必要があり、関係機関との調整や内容の精査、協議会の開催等、業務量が大幅に増加する。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> 事業費の整理やスケジュールの見直しに伴い、必要経費を計上する。 都市再生整備計画事業活用のため、歴まち計画作成支援業務料を追加したい。

第1次査定	<ul style="list-style-type: none"> 市民理解や周知が充分でないため、令和5年度は基本計画を基に関係者だけに留まらない意見聴取や周知を優先することとし、当初予算計上は認めない。 合わせて課題である財源の確保のため、社会資本整備総合交付金や起債対象の精査に努めるとともに、前提となる歴まち計画は文化財保存活用計画の内容を活用した内製によって行うこと。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	南澤 強	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	基本計画・設計進捗率(%)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	4.3	
実績値(事後評価)	3.2		
目標値	6.5	22.8	100.0

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	③
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想策定のため検討委員会を2回開催した。 基本計画策定委員会を新たに立ち上げ、2回の策定委員会を開催した。 基本計画策定業務委託業者をプロポーザル方式により選定した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 新博物館の基本方針をまとめた基本構想について、パブリックコメントを実施して取りまとめを行い、「過去に学び 未来へつなぐ みんなの博物館」をテーマに整備していくことを決定した。 基本構想をより具体化させた基本計画策定にあたっては、学識経験者6名を含む12名の委員により構成された策定委員会を開催した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画は、その後の設計と条件ともなるものであり、施設の諸室内容や必要面積、展示内容の検討など整備の方向性をしっかり定めるため、専門家の意見とともに市民の声も聞きつつ計画策定を進めていく必要がある。 整備に係る財源等についても内容を検討した上で、最良な計画策定を行うことが必要。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		ひらいでの里魅力づくり事業				担当課	平出博物館			
目的	対象	市民全般				施策体系	4-2-1			
	意図	交流や誘客を促進するとともに、地域づくりに寄与する地域資源の利活用を図る。				新規/継続	継続			
手段		地域資源を再検証し、豊かな暮らしを実感し交流する地域づくりを目指し、「ひらいでの里」の魅力づくりに関する方策等についての調査検討を行い、また、その魅力を再認識する取り組みを行う。				会計区分	一般			
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	○ひらいで遺跡まつりの開催 ○地域連携講座等の開催 ○こども体験ミュージアムの開催		○ひらいで遺跡まつりの開催 ○地域連携講座等の開催 ○こども体験ミュージアムの開催		【平出遺跡公園事業に統合】					
事業費・財源	決算額 (千円)		238	予算額 (千円)		1,247	計画額 (千円)		-	
	遺跡まつり実行委員会負担金		142	遺跡まつり実行委員会負担金		950				
	講師謝礼		0	講師謝礼		86				
	その他		96	その他		211				
	特定	0	一般	238	特定	0	一般	1,247	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.06人	会計年度	0.06人	正規	0.13人	会計年度	0.27人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	遺跡まつり来場者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		0	0		
実績値(事後評価)	-	0			
目標値		4,000	4,000	4,000	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の 方向性	⑦
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	休廃止
総合評価		A		コスト	皆減

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・第18回ひらいで遺跡まつりは、新型コロナウイルス感染症のため中止し、代替事業として「ひらいでフォトコンテスト」を開催した。 ・観光課との共催で「SHIOJIRI NIGHT MUSEUM in 平出遺跡」を開催した。
成果	・「ひらいでフォトコンテスト」には106点の作品が出品され、入選作品はホームページやポスターなどで平出遺跡のPRに活用された。 ・SHIOJIRI NIGHT MUSEUMには想定を上回る2,400人余の来場者があった。
課題	・ひらいで遺跡まつりはコロナ対策をとりつつ、事業内容や開催方法についても検討していく必要がある。 ・SHIOJIRI NIGHT MUSEUM開催にあたっては、イベント内容や駐車場対応など検討すべき課題もあるが、塩尻の魅力を伝える部署を超えたイベントとして定着させていきたい。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・平出遺跡公園を会場にファイナリーフェスタが開催されるなど、他部署との連携を通じた魅力発信に取り組んでいる。
当年度生じた新たな問題等	・ひらいで遺跡まつりは開催に向けて準備を進めていたが、開催1か月前時点で新型コロナウイルス感染症が急拡大したことを受け、中止とした。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・今年度のひらいで遺跡まつりは、新型コロナウイルス感染症が急拡大したことにより中止となったが、次年度は運営方法等についてさらに検討を深めたうえで開催とするため、現状維持としたい。 ・本事業はスクラップとし、遺跡まつり実行委員会負担金はR4年度と同額予算を平出遺跡公園事業に移管し計上する。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	本洗馬歴史の里運営事業				担当課	平出博物館						
目的	対象	市民全般				施策体系	4-2-1					
	意図	地域固有の文化的資源の魅力や意義を市内外に発信することで、資源を活用した交流を促進する。				新規/継続	継続					
手段	洗馬固有の地域文化を継承するために資料調査及び収集保管するとともに、市民が歴史や文化に親しみを持てるよう、地域や学校と連携し、講座や企画展を開催する。				会計区分	一般						
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管				○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管				○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管			
事業費・財源	決算額	(千円)	5,639	予算額	(千円)	5,957	計画額	(千円)	予算対応			
	講師謝礼		105	講師謝礼		144						
	需用費		1,159	需用費		1,304						
	会計年度任用職員報酬等		3,054	会計年度任用職員報酬等		3,356						
	その他		1,321	その他		1,153						
	特定	101	一般	5,538	特定	136	一般	5,821	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.04人	会計年度	0.96人	正規	0.03人	会計年度	1.29人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・本洗馬歴史の里協議会委員等に助言をいただきながら、地域の歴史に関する展示等を実施している。
当年度生じた新たな問題等	・入館者数の中間値が昨年度比4割近い減少となっている。夏季の企画展が実施できなかった事が要因と考えるが、今後も展示会等魅力ある企画を検討するとともに、適切な情報発信に努める必要がある。 ・資料館は建築後25年が経過しているため、電気設備を中心に不具合が生じ始めている。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・施設が老朽化し、不測の故障等が発生する確率が高いことから小破修繕の経費を計上したい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		1,496	938		
実績値(事後評価)	1,362	2,130			
目標値		1,600	1,800	2,000	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・講演会として釜井庵寺子屋塾2回、洗馬歴史講演会1回を開催し、常設展以外にも企画展示会を4回開催した。 ・陶芸の振興として、参加者のレベルに応じた4講座の陶芸教室を開催した。
成果	・コロナ対策として人数制限を設けて開催した寺子屋塾には58人、歴史講演会には73人の受講者があった。 ・「初心者」「中級者」「子ども」「七輪窯」と4種類の陶芸教室を開催し、55人の参加者があった。
課題	・古文書等を読むことのできる職員がいないため、古文書等を活用した地域の歴史に関する企画展などの開催が困難である。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		市民スポーツ振興事業				担当課	社会教育スポーツ課						
目的	対象	スポーツをする市民				施策体系	4-2-2						
	意図	市民の体力作りに対する意識の向上と運動の習慣づけ、多様化するスポーツに対するニーズへの対応を図る。				新規/継続	継続						
手段		社会体育指導者等の資質向上のための教室やスポーツイベントの事業を実施する。				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度								
	○スポーツ教室等の開催 ○松本山雅フェスティバル事業		○スポーツ教室等の開催 ○松本山雅フェスティバル事業		○指導者向け講習会の開催 ○国民スポーツ大会の準備 ○松本山雅フェスティバル事業								
事業費・財源	決算額 (千円)		360	予算額 (千円)		872	計画額 (千円) 予算対応						
	松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金		0	松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金		500							
	その他		360	北信越中学校総合競技大会負担金		100							
				その他		272							
		特定	0	一般	360	特定	500	一般	372	特定		一般	
業務量(人工)		正規	0.05人	会計年度	0.00人	正規	0.05人	会計年度	0.00人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	各種スポーツ教室の参加人数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	0	
実績値(事後評価)	0	0		
目標値		30	30	30
評価指標(単位)	松本山雅フェスティバル参加団体数(団体)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	8	
実績値(事後評価)	8	0		
目標値		8	8	8

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 本年度のロードレースは中止とし、来年度以降はこれまでの形態では実施しない方向性で実行委員会の総意を得られた。 松本山雅フェスティバルは代替イベントを検討したが、市内小学校でのクラスター発生などにより中止となった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ロードレース実行委員会は本年度もって解散するとともに、会計は精算し監事による監査を受けた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 新たなスポーツイベントの企画検討を進めるため、検討委員会による継続した協議が必要となる。 松本山雅フェスティバルは規模縮小(県内8チーム)した場合のイベントの検討が必要となる。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 松本山雅フェスティバルについては、前年度、コロナの影響により規模を縮小し、計画を変更しての実施を予定していたが、市内小学校の感染拡大もあり中止となった。本年度は、施設が利用停止にならない限り実施をする方針で準備を進めている。 スポーツイベントの検討については、検討委員会を継続しているが、本年度から外部人材(塩尻Cxo lab)の協力により、新たな塩尻の地域資源を生かしたスポーツイベントの開催について議論を進めている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 松本山雅フェスティバル実行委員会の事務局が社会教育スポーツ課が主管で良いのか、実行委員長の出身母体である商工会議所が良いのか、今後の事業展開を見据え検討が必要である。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ教室は、指導者向けの講演会など「スポーツ推進計画」に沿った内容を検討する。 国民スポーツ大会の開催(2028年)に向けた準備を進める。(先行事例の調査、準備委員会の設立準備等) 松本山雅フェスティバルは、今年度並み(県内8チーム)により予算計上したい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	課長補佐	氏名	長島 峰行	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行	

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		競技力向上事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	スポーツをする市民				施策体系	4-2-2					
	意図	市体育協会への事業委託等により、大会の開催や競技力向上を図ることで、市民への競技スポーツの普及と推進につなげる。				新規/継続	継続					
手段		競技スポーツの推進と競技力向上のための各種大会やスポーツ教室等の開催を、市体育協会と地区体育協会等へ委託する。				会計区分	一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助				○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助				○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助			
事業費・財源	決算額 (千円)		14,694	予算額 (千円)		20,132	計画額 (千円)		予算対応			
	体育振興事業委託料		4,080	体育振興事業委託料		6,085						
	地区体育振興事業委託料		2,293	地区体育振興事業委託料		4,818						
	体育協会活動補助金		8,321	体育協会活動補助金		9,189						
				会場使用料		40						
特定		0	一般		14,694	特定		0	一般		20,132	
業務量(人工)		正規	0.16人	会計年度	0.00人	正規	0.16人	会計年度	0.00人	正規		

○評価指標

評価指標(単位)	市民体育祭参加者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		1,259	1,526		
実績値(事後評価)	461	1,259			
目標値		1,500	1,500	1,500	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の 方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・市民体育祭は感染対策の徹底を図りながら、22種目中、15種目が実施された。
成果	・市民体育祭は15種目1,259名の参加があった。 ・地区体協は、中止となった大会が多かったが、会場が外であったり少人数で広い室内で行われるものは感染対策を十分に行い実施した。
課題	・感染対策に十分配慮した大会運営が求められるが、数年間中止としたことで、今後も以前のように開催できるかが大きな課題となる。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・塩尻市民水泳大会は、感染拡大の影響により中止とした。 ・塩尻市民体育祭は、感染対策を十分に取る中で20種目中19種目を実施し、1,526人の参加者があった。
当年度生じた新たな問題等	・水泳大会の運営については、近年、運営スタッフの人員不足(タイム計測など素人しかいない)などの課題が表面化しており、継続実施が厳しい状況となっている。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・体育協会との連携を密にし、各種大会などへのスポーツ活動に対して補助を継続していく。 ・市民水泳大会は、松本市の施設を借用している事、また施設都合で8月下旬の借用となる事、市内小学校は夏休み前に水泳授業がほぼ終了する事などから事業を一旦休止としたい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	課長補佐	氏名	長島 峰行	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行	

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		体育施設管理運営事業				担当課	社会教育スポーツ課						
目的	対象	スポーツをする市民				施策体系	4-2-2						
	意図	市民の体力づくり、生きがいづくり				新規/継続	継続						
手段		スポーツ施設の適正な維持管理による利用の促進				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度								
	○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○現行公共施設予約システム管理委託及び運用 ○公共施設予約新システムの運用 ○体育施設樹木管理		○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理		○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理								
事業費・財源	決算額 (千円)		39,555	予算額 (千円)		44,847	計画額 (千円) 予算対応						
	体育施設管理委託料		14,262	体育施設管理委託料		15,398							
	電力・上下水道使用料		11,496	電力・上下水道使用料		13,157							
	公共施設予約システム運用		3,327	予約システム等使用料		5,241							
	体育施設樹木管理委託料		930	体育施設樹木管理委託料		650							
	その他		9,540	その他		10,401							
	特定	10,650	一般	28,905	特定	15,937	一般	28,910	特定		一般		
業務量(人工)		正規	0.44人	会計年度	0.35人	正規	0.44人	会計年度	0.35人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	体育施設の利用者数(学校体育施設を除く)(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		60,817	78,671	
実績値(事後評価)	123,924	114,177		
目標値		190,000	190,000	190,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 市内体育施設(6施設)について、清掃業務など施設管理業務を市体育協会に委託した。 昨年10月に更新した公共施設予約システムは学校体育施設も対象となり、利用者の利便性向上が図られている。 体育施設周辺の樹木については、予算の範囲内で業者に委託し伐採しているが、近隣住民からの落ち葉や枝落ちなどに対する苦情対応が追いつかず、職員により樹木の伐採、枝打ちを行っている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 樹木管理が毎年の予算では賄いきれず、職員が対応しているが、体育施設の近隣住民からの要望に十分対応できない状況となっている。中央スポーツ公園については、不特定多数の大人や子供も利用することから、枯れ枝の落下など利用者の安全性が心配される。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 樹木管理委託料のコスト拡大により、体育施設内の樹木管理(特に中央スポーツ公園)に重点を置きたい。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 体育施設の修繕については、7施設20箇所を実施した。トイレの排水管の修繕など急を要する修繕が何箇所か発生したため、予算流用により対応した。 体育施設敷地内の樹木については、枯れ枝の落下や落ち葉による周辺住民の要望に対し職員が迅速に対応した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 突発的に起こる修繕及び計画していた修繕箇所への対応を実施することができ、体育施設利用者に安全な環境を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 緊急に発生する修繕箇所や老朽化への対応が予算内では補っていないのが現状。 全ての利用者の要望に応えることはできないため、要望に対する順位付けを行っているが、緊急性が高いケースが増加していることにより、順位付けも困難となっている。

第1次評価	提案どおりとする。														
第2次評価	—														
作成担当者	生涯学習部		社会教育スポーツ課		スポーツ推進係		職名	課長補佐		氏名	長島 峰行		連絡先(内線)	3120	
最終評価者	社会教育スポーツ課長			氏名	田下 高秋			担当係長	スポーツ推進係長			氏名	長島 峰行		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		総合体育館運営事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	施設を利用する市民				施策体系	4-2-2					
	意図	施設の稼働率の向上及び利用者の満足度の向上を図る。				新規/継続	継続					
手段		指定管理者制度による効率的な管理運営(R3~5年間)				会計区分	一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業 ○開館イベント費用				○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業 ○開館イベント費用				○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業			
事業費・財源	決算額 (千円)		110,600	予算額 (千円)		108,365	計画額 (千円)		予算対応			
	指定管理料		101,920	指定管理料		100,880						
	開館イベント委託料		4,729	開館イベント委託料		4,933						
	運動習慣事業委託料		1,235	運動習慣事業委託料		500						
	その他		2,716	その他		2,052						
	特定 1,500 一般 109,100		特定 4,338 一般 104,027		特定 一般							
業務量(人工)		正規 0.12人	会計年度 0.00人	正規 0.12人	会計年度 0.00人	正規	会計年度					

○評価指標

評価指標(単位)	施設の利用者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		29,065	49,075		
実績値(事後評価)	-	77,008			
目標値		60,000	80,000	80,000	
評価指標(単位)	スポーツ大会利用日数(日)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		14	9		
実績値(事後評価)	-	41			
目標値		30	30	30	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の 方向性	④
	有効性	4	高い		
	効率性	4	高い		
総合評価		A		成果	拡充
				コスト	縮小

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定例会の開催により、運営の課題や改善点について指定管理者と担当課の共有が図られている。 ・コロナにより開催できなかった開館イベント(日体大による集団行動)を本年度に持ち越し、12月25日に開催予定である。 ・トップアスリートによる競技力向上を図るため、本年度、奥原希望選手を招いたクリニックを計画中である。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの運動習慣改善事業は本年度2年目を迎えたが、昨年度の実績を踏まえ予算を縮小し募集をかけた。昨年度に引き続き応募のある学校もあるが、新規の学校もあり、応募のあったすべての学校で実施ができない。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの運動習慣改善事業は来年度、予算の拡大を検討する。 ・本年度実施できないこととなった、奥原希望選手を招いたクリニックを計画したい。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定例会の開催により、問題点や利用促進を図るための自主イベントの周知など指定管理者との情報共有がしっかりと図れた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による利用制限をかけざるを得ない期間もあったが、指定管理者と連絡を密に取り合う中で、安心・安全な環境を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、本年度以上に観客を入れた大きな大会などの開催が期待されるが、物価高騰による光熱水費など経常的経費の膨らみが心配される。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> ・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	課長補佐	氏名	長島 峰行	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行	

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	C	シニアが生き生きと活躍できる地域の創造	プロジェクト	7	生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築	施策	2	生涯を通じた学びと知識や経験の継承
目的	高齢者をはじめ、自発的に活動する意欲を持った市民に対して、生涯を通じた学び合いの場や文化芸術に触れる機会を提供することで、市民一人ひとりの豊かな生活の創造と地域活動の活性化を促進します。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値 令和5年度
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
統計	公民館の来館者数	210,356人 R1	127,739人		220,000人
	文化会館利用者数	97,772人 R1	41,600人		112,000人
市民	図書館や公民館などの利用環境が整っていると感じる市民の割合	70.8% R2	72.0%		74.0%
	音楽や文学、芸術活動に触れたり参加したりする機会に恵まれていると感じる市民の割合	33.6% R2	29.2%		43.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習支援事業はこれまで事業を縮小してきており、ロマン大学運営が主な事業となっている。それに伴い、公民館事業の拡充が中央公民館を中心に図られてきた。市民の学びの意欲に答える受け皿として更なる拡充が必要である。 文化会館と総合文化センターを拠点とした市民の芸術文化事業が長く継続されてきた。施設を適正に維持管理し、発表の機会を確保することで拡充を図る。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症の長期化による活動の縮小や、団体役員の高齢化に伴い、活動する団体の弱体化が懸念される。行政と活動団体がそれぞれの役割を再認識し活性化を図る必要がある。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋		

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み①	生涯学習活動の推進	手段	市民が生涯学習を通じて、生きがいを持ち、豊かな生活を送れるように、公民館の講座や塩尻ロマン大学等による学びの場を提供するとともに、学習拠点となる社会教育施設の環境の充実を図ります。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	生涯学習支援事業	社会教育スポーツ課	2,288	3,469	予算対応	△	現状維持	縮小
2	公民館事業	社会教育スポーツ課	41,863	45,704	予算対応	◎	拡充	現状維持
3	総合文化センター管理事業(施設改修)	社会教育スポーツ課	3,829	18,084	-		現状維持	現状維持
4	公民館分館施設整備事業	社会教育スポーツ課	5,297	36,379	41,491		拡充	拡大

取り組み②	文化芸術活動の支援	手段	市民が、多様な文化芸術を身近に接することができるよう、文化会館の改修や市民ニーズに応じた事業の企画、文化芸術活動を行っていきます。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	芸術文化事業	社会教育スポーツ課	1,959	4,131	予算対応		拡充	現状維持
2	文化会館運営事業	社会教育スポーツ課	132,720	132,720	予算対応		拡充	拡大
3	文化会館改修事業	社会教育スポーツ課	52,910	6,223	20,000	○	現状維持	現状維持

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和3年度 事後評価

施策指標の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> 「公民館の来館者数」「文化会館利用者数」共に、コロナ禍により減少が継続している。 「図書館や公民館などの利用環境～」は昨年より向上したが、感染拡大による閉鎖等のリスクがある。 「音楽や文学、芸術活動に触れたり参加したり～」はコロナ禍による練習活動の停滞、発表する機会の中止が大きく影響しているものと分析する。
施策の定性評価	<ul style="list-style-type: none"> 長く続くコロナ禍により、社会情勢や地域コミュニティが大きく変革し、事業の進め方の難易度が上がり、複雑になっている。 中止となっている地区行事(文化祭、運動会等)を何らかの形で復活し、公民館を地域の核としてコミュニティの形成が図られるよう継続的な取り組みが重要となる。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		生涯学習支援事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	市民				施策体系	7-2-1					
	意図	生涯学習のための環境と機会の提供				新規/継続	継続					
手段	<ul style="list-style-type: none"> 各年代に応じた学習機会の提供及び情報発信 生涯学習の現状と課題を把握するためのアンケート調査実施 第六次塩尻市総合計画の策定に合わせた、「塩尻市生涯学習推進プランⅣ」の策定 				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金				○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金				○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金 ○塩尻市生涯学習推進プランⅣ策定			
事業費・財源	決算額 (千円)		2,288	予算額 (千円)		3,469	計画額 (千円) 予算対応					
	社会教育委員報酬		194	社会教育委員報酬		282						
	ロマン大学事業補助金		398	ロマン大学事業補助金		1,000						
	その他		1,696	その他		2,187						
	特定	64	一般	2,224	特定	71	一般	3,398	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.73人	会計年度	0.02人	正規	0.73人	会計年度	0.02人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	ロマン大学入学者に占める新規入学者の割合(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		59	76	
実績値(事後評価)	84	59		
目標値		59	80	80
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の 方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	縮小

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・ロマン大学は、新規受講者の割合が前年と比べ上昇した。募集人数40人に対し、33人が入学した。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、ほぼ予定通り開講している。野外講義は9月以降実施予定。
当年度生じた新たな問題等	・ロマン大学を体調不良や家庭の事情を理由として、途中で退講される人が例年と比べ多い。一時的な傾向なのか、注視していく。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・ロマン大学は、新規入学者の割合や募集人数に対する入学者の割合が上昇傾向であるため、受講者募集を継続し、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら開講する。 ・塩尻市生涯学習推進プランⅢは、生涯学習及び社会教育に関わる個別計画でR5年度までの計画となっている。R6年度以降の見直しについては、法令によって策定が定められた計画ではないことから、総合計画等、他の計画の補足をしながら進捗管理をするための計画とし、策定のための委託料等は計上しない。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・ロマン大学では、生涯学習の一環として社会参加へのきっかけづくりを提供する学習プログラムを実施した。
成果	・ロマン大学は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。一部の野外講義も実施することができた。
課題	・ロマン大学は、受講者の減少傾向に一定の歯止めがかかっているものの、複数回入学される方が多いため、新規受講者＝生涯学習を実践する人を増やすことが必要である。 ・ロマン大学の野外講義は受講者からの期待が高く、入学への動機にもなっているが、新型コロナウイルス感染症対策により大人数での見学の受入れをしていない施設があるため、開催方法について検討が必要である。

第1次評価	・提案どおりとする。														
第2次評価	—														
作成担当者	生涯学習部		社会教育スポーツ課		社会教育係		職名	係長		氏名	大塩 弘嗣		連絡先(内線)	3132	
最終評価者	社会教育スポーツ課長			氏名	田下 高秋			担当係長	社会教育係長			氏名	大塩 弘嗣		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		公民館事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	市民全体				施策体系	7-2-1					
	意図	市民の生涯学習を推進すると共に、地域の連携をさらに深めるために、公民館の運営と各種、講座、講演会等を行う。				新規/継続	継続					
手段		中央公民館の運営と地区公民館における各種教室、講座、講演会等の運営を支援する。				会計区分	一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進				○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進				○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進			
事業費・財源	決算額 (千円)		41,863	予算額 (千円)		45,704	計画額 (千円) 予算対応					
	地区公民館事業負担金		27,655	地区公民館事業負担金		27,684						
	会計年度任用職員報酬等		10,156	会計年度任用職員報酬等		13,781						
	学級講座講師謝礼		790	学級講座講師謝礼		1,100						
	その他		3,262	その他		3,139						
	特定 1,991 一般 39,872		特定 1,500 一般 44,204		特定 一般							
業務量(人工)		正規 0.70人	会計年度 1.16人	正規 0.70人	会計年度 1.16人	正規	会計年度					

○評価指標

評価指標(単位)	公民館事業参加人数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		5,677	6,468	
実績値(事後評価)	11,988	12,852		
目標値		25,000	25,000	25,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の 方向性	②
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	現状維持

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> withコロナを前提として各公民館で内容を精査しながら積極的に活動を行い、地域住民のつながりづくりや学びの場の提供を行っている。 各公民館が社協と連携して、福祉・防災などをテーマにした講座を実施している。 分館役員が一同に会する公民館研究集会对面式で3年ぶりに開催し、役員の学びの場や情報交換、課題の共有の場となった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において分館活動が活発に動いているところと動いていないところの差が顕著になっている。また数年行事が出来ていなかったことにより役員同士の引継ぎが十分に出来ない。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動は主事の働きにより大きく左右されるため、また限られた予算で最大の効果が発揮できるような人員配置をお願いしたい。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館では88回の講座を実施し参加者延べ1,553人、地区公民館では709回の講座を実施し参加者延べ11,299人が参加した。 年間を通じてコロナの影響により中止や延期もあったが、工夫をしながら地域のつながりや学びの場の提供が途切れないよう事業を推進した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 塩尻東公民館が全国公民館連合会主催の全国公民館インターネットコンクールにて銀賞を受賞、また原新田公民館が長野県教育委員会主催の長野県公民館活動アワードを受賞した。 withコロナの中それぞれ工夫をしながら公民館活動を推進した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> withコロナとして大きな行事(文化祭など)について見直しをしながら開催をしていく必要がある。 地域課題解決の事業は、他団体との連携を強化していく。 分館活動がより活発になるように中央公民館、また地区公民館の支援を検討・実施していく。

第1次評価	・提案どおりとする。									
第2次評価	—									

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	中央公民館	職名	主任	氏名	安藤 寿秀	連絡先(内線)	3141
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長		氏名			

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		総合文化センター管理事業(施設改修)				担当課	社会教育スポーツ課			
目的	対象	塩尻市総合文化センター利用者				施策体系	7-2-1			
	意図	快適な生涯学習活動の拠点施設の整備				新規/継続	継続			
手段	計画的な施設及び設備の改修					会計区分	一般			
						個別施設計画	○			
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
	○塩尻総合文化センター改修工事 ・講堂等照明改修 ・消防設備改修			○照明LED化工事						
事業費・財源	決算額 (千円)	3,829	予算額 (千円)	18,084		計画額 (千円)	-			
	改修工事	3,829	照明LED化工事	18,084						
	特定	0	一般	3,829	特定	16,200	一般	1,884	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.17人	会計年度	0.00人	正規	0.17人	会計年度	0.00人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	改修実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	0	
実績値(事後評価)	2		
目標値	1	1	0

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	現状維持

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から「使用時の操作が複雑」と指摘されていた、講堂照明のスイッチ簡素化工事を実施した。併せて照明のLED化工事を実施した。 ・消防設備点検により指摘を受けた個所について改修工事を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者への影響を最小限とする中で、工期の調整を行い、予定された工期内で工事が完了した。 ・利用者が煩雑な操作をすることなく照明が使用できるようになった。 ・一部事務室の照明LED化により、職場環境の改善が図れた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の老朽化が進む中、市民ニーズに応えつつ、計画的に施設の改修を検討していく必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・利用者のニーズを踏まえ、計画的に事業実施が出来ている。
当年度に生じた新たな問題等	・施設の老朽化に伴い、年々、大小問わず修繕箇所が発生している。建設から40年以上経過しているため、大規模改修を検討する必要がある。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	—

第1次査定	—								
第2次査定	—								

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	大塩 弘嗣

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	公民館分館施設整備事業				担当課	社会教育スポーツ課						
目的	対象	公民館分館を利用する住民				施策体系	7-2-1					
	意図	地区及び地区住民の負担を軽減し、生涯学習活動の充実を図る。				新規/継続	継続					
手段	地区公民館、分館の新築・増改築工事に対する補助				会計区分	一般						
					個別施設計画							
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度							
	○公民館分館改修補助		○公民館分館改修補助		○公民館分館改修補助							
事業費・財源	決算額 (千円)	5,297	予算額 (千円)	36,379	計画額 (千円)	41,491						
	補助金	5,297	補助金	36,379	補助金	41,491						
	特定	0	一般	5,297	特定	0	一般	36,379	特定	0	一般	41,491
業務量(人工)	正規	0.03人	会計年度	0.00人	正規	0.03人	会計年度	0.00人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	補助事業実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	4	11	
実績値(事後評価)	4		
目標値	4	12	15

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の方向性	①
	効率性	1	低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の拠点となる吉田東公民館外3箇所について、改修に対する補助金を交付した。 公民館の新築や改修について、各地区の聞き取り調査を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の拠点施設の機能維持、環境整備に寄与することができた。 各地区からの聞き取り調査により、令和5年17件、令和6年6件、令和7年4件、令和8年2件、計29件の改修要望があった。主な内容は、施設の老朽化による屋根及び外壁、床の改修、温暖化によるエアコンの設置、省エネに向けた照明のLED化である。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 築40年以上の建物が公民館全体の半数を占めており、聞き取り調査以降も施設の老朽化による改修についての相談を区から受けている。 改修費がもともと高額になる傾向があったが、昨今の世界情勢により更に高騰しており、区の負担が増大している。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度以降実施予定の公民館の新築や改修の要望書を各地区から提出いただいた。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度末に新築や改修の聞き取り調査を実施したが、新たに、早急に対応が必要な屋根や外壁の改修及び消防設備の要望や、当年度の工事費高騰による工事内容の見直しによる追加の要望が挙がってきている。逆に、工事費高騰を受け、改修要望を上げることができない地区もある。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の改修要望が14地区14件あり、そのうち1件は新築。 ・前年度末の調査結果も加味し、屋根や壁、エアコン設置、トイレ洋式化、照明の改修といった建物の用途維持及び市民の健康維持に必要な改修に対して補助するようになっている。

第1次査定	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業における近年の補助額が非常に高額であり全額が一般財源であることから、補助額の平準化ができるよう制度設計する必要がある。R6年度実施事業の地区への募集前に、補助金交付に関する基準を策定し、庁内で協議・決定させて地区へ周知すること。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	大塩 弘嗣	連絡先(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	大塩 弘嗣	

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		芸術文化事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	市民及び芸術文化活動者				施策体系	7-2-2					
	意図	市民の芸術文化意識の向上と芸術文化活動者の拡大、活性化により、市芸術文化の振興を図る。				新規/継続	継続					
手段		市芸術文化事業及び芸術文化研修事業の開催、芸術文化事業補助金の交付				会計区分	一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用			
事業費・財源	決算額 (千円)		1,959	予算額 (千円)		4,131	計画額 (千円) 予算対応					
	芸術文化事業委託料		860	芸術文化事業委託料		2,260						
	芸術文化事業補助金		90	芸術文化事業補助金		250						
	その他		1,009	その他		1,621						
	特定	0	一般	1,959	特定	2,260	一般	1,871	特定		一般	
業務量(人工)	正規	1.05人	会計年度	0.66人	正規	1.05人	会計年度	0.66人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	芸術文化事業参加団体数(団体)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		0	34		
実績値(事後評価)	24	64			
目標値		175	175	175	
評価指標(単位)	芸術文化事業参加来場者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		0	850		
実績値(事後評価)	1,200	3,050			
目標値		8,000	8,000	8,000	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の 方向性	②
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・塩尻市芸術文化事業5事業のうち、文化祭、洋楽舞踊フェスティバル、演劇フェスティバルの3事業を実施した。 ・市内芸術文化活動団体の活動を支援するため、補助金を2件交付した。
成果	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら、一部事業は中止となったが、前年度と比べると多くの事業を実施することができた。 ・活動者に日ごろの活動の成果発表の場を提供し意欲向上の一助とするともに、コロナ禍でも市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、地域の芸術文化振興に寄与した。
課題	・塩尻市芸術文化振興協会会員の高齢化及びコロナ禍による会員減少が進んでいるため、会員の負担軽減に向け、事務の手順及び事業運営方法の見直しを進める必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・事業の実施に当たっては、コロナ対策を講じつつ、会員等の作業量や負担の少ない実施方法を検討している。
当年度生じた新たな問題等	・新型コロナウイルス感染拡大により、市民音楽祭が昨年に引き続き中止となった。 ・市民の方より芸術作品の寄贈を受けている。これらの作品を芸術文化の普及に活用するため、作品の整理を進める必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・今年度中止となった市民音楽祭についても音楽発表練習会の形式で代替行事を実施した。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、市民の芸術文化活動の披露の場、つながりの場を維持するため、引き続き芸術文化5事業を実施する。 ・市が所蔵している芸術作品について、より多くの市民に鑑賞していただけるよう、作品の整理や額装を継続していく。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	大塩 弘嗣		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		文化会館運営事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市民及び芸術文化活動者				施策体系	7-2-2				
	意図	質の高い芸術文化鑑賞事業等を市民へ安価に提供する。				新規/継続	継続				
手段		文化会館の管理運営と芸術文化鑑賞事業の実施				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度				令和5年度				
	○施設の指定管理		○施設の指定管理				○施設の指定管理				
事業費・財源	決算額	(千円)	132,720	予算額	(千円)	132,720	計画額	(千円)	予算対応		
	指定管理料		132,720	指定管理料		132,720					
	特定	0	一般	132,720	特定	0	一般	132,720	特定	一般	
業務量(人工)	正規	0.08人	会計年度	0.00人	正規	0.08人	会計年度	0.00人	正規	一般	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・新型コロナウイルス感染症の流行状況や感染対策を考慮しての利用、事業展開を行っている。
当年度生じた新たな問題等	・令和5年10月からのインボイス制度開始によりシステム改修及び端末の更新等の対応が必要となる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・R3年度実績で、一般団体の利用は全利用人数の約3割、利用料収入は約8割を占めており、新型コロナ収束後は更にこの割合が増えることが想定される。営業目的の利用がされないことと入場者数及び利用料収入の減少に直結するため、インボイス制度に対応するための費用を計上した。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	大塩 弘嗣		

○評価指標

評価指標(単位)	文化会館利用者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		18,620	23,651	
実績値(事後評価)	13,550	41,600		
目標値		112,000	112,000	112,000
評価指標(単位)	文化会館芸術文化事業来場者数(利用者数内数)(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		4,746	7,022	
実績値(事後評価)	2,779	9,746		
目標値		27,000	27,000	27,000

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・文化会館の管理運営及び芸術文化活動支援事業等を指定管理者に委託実施した。
成果	・新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者数は例年と比べ落ち込んでいるが、感染防止の対策を講じながら可能な限り事業の実施に努めた。 ・市民ニーズを捉えた多種多様な事業の実施により、開催できたものに関しては、高いチケット販売率を達成している。
課題	・今後もコロナ禍に対応した事業展開が必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	文化会館改修事業						担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市民及び文化会館利用者						施策体系	7-2-2			
	意図	芸術文化鑑賞事業等の実施拠点を確保する。						新規/継続	継続			
手段	計画的な施設及び設備の改修						会計区分	一般				
							個別施設計画	○				
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度					
	○文化会館改修工事 ・受電設備更新 ・空調自動制御機器更新 ・舞台機構設備マニラロープ改修			○文化会館改修工事 ・コンサートピアノオーバーホール ・建物外壁防水工事(調査業務) ・吊天井耐震化工事(調査業務)			○文化会館改修工事 ・建物外壁防水工事					
事業費・財源	決算額 (千円)	52,910	予算額 (千円)	6,223	計画額 (千円)	20,000						
	改修工事	52,910	改修調査業務委託料	2,205	改修工事	20,000						
			ピアノオーバーホール委託料	4,018								
業務量(人工)	特定	48,700	一般	4,210	特定	0	一般	6,223	特定	18,000	一般	2,000
	正規	0.11人	会計年度	0.00人	正規	0.11人	会計年度	0.00人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・改修規模の大きな事業がほとんどであるため、長期的な改修計画の見直しと策定を進めている。
当年度に生じた 新たな問題等	・毎年の改修計画に加え、吊天井の耐震化を含めた大規模改修事業の時期の選定と改修内容の検討を進めていく必要がある。
新年度の予算要 求事項(実計補正 する場合は理由)	・要求額の範囲内で、雨漏り等の原因となる外壁の補修を実施する。
第1次査定	・要求どおりとする。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	大塩 弘嗣		

○評価指標

評価指標(単位)	施設設備改修工事・調査実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	0	
実績値(事後評価)	3		
目標値	2	3	1

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・受電設備及び空調自動制御機器の更新工事を実施した。 ・点検結果に基づき、舞台機構設備のうちマニラロープの改修工事を実施した。
成果	・施設利用者への影響を最小限とする中で、工期の調整を行い、予定された工期内で工事を完了した。
課題	・今後も舞台吊物機構更新工事などの大規模な工事が必要となってくるため、計画的・効率的な改修計画を策定する必要がある。 ・全国で問題となっている吊天井の耐震化工事は、長期間の休館を伴う大規模改修工事となるため、他の工事と調整しながら、改修時期を検討していく必要がある。

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	包	基本戦略を包括し機能的に推進するプロジェクト	プロジェクト	10	地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり	施策	2	知恵の交流を通じた人づくりの場の提供
目的	市民交流センター機能を中心に、知恵と意欲を持つ人材や団体の活発な活動・交流を促進するとともに、時代の潮流に応じた情報の集積拠点として、多様な資源とネットワークを活用し、確かな情報提供と課題解決の支援をすることで、新たな知恵と価値が創出される場を提供します。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値 令和5年度
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
まちづくりチャレンジ事業を実施し、自立運営している団体数(累計)	29団体 R1	33団体			40団体
市民交流センター貸館利用率	75.9% R1	69.9%			80.0%
レファレンス受付件数	2,314件 R1	2,429件			2,500件
図書館の市民1人当たり貸出冊数	10.0冊 R1	10.2冊			10.0冊
市民 市民が中心となったまちづくり活動が活発に行われていると感じる市民の割合	28.2% R2	25.8%			36.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	<ul style="list-style-type: none"> ・建設から12年を経過した市民交流センターは、施設本体及び設備面で大規模な修繕と機器更新が必要になっている。省エネルギー設備の導入を含んだ機器更新を計画し、補助金を財源として充当することにより、快適な施設環境を維持し長寿命化を図る必要がある。 ・文化財建造物としての価値が高い古田晁記念館の保存活用にあたり、耐震改修を含めた工事の実施が必要になっている。今年度の耐震診断結果を踏まえ、耐震改修工事に向けた設計に着手したいが、工事費も含め財源の確保が課題である。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の拠点として定着している市民交流センターを拠点として、スキルや特性を生かした多様な市民活動により、地域づくりの担い手の幅が広がっている。持続可能な地域づくりに向けて、市民活動の支援と人の交流をさらに促進していく。 ・知恵の交流を通じた人づくりの場を拠点にした「地域づくりにつながる人づくり」を基本理念として複合施設として強みを生かし、進化する図書館として時代の変化に応じた情報サービスを創出することにより、市民主体の地域課題の解決につなげていく。

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ①	市民活動の支援と人の交流の促進	手段	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	協働のまちづくり推進事業	市民交流センター	2,987	4,477	予算対応	○	拡充	拡大
2	市民交流センター交流企画事業	市民交流センター	18,028	19,516	予算対応	△	現状維持	縮小
3	市民交流センター管理諸経費(施設改修)	市民交流センター	20,966	22,610	66,000	◎	拡充	拡大

取り組み ②	確かな情報による課題解決の応援	手段	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	図書館サービス基盤整備事業	図書館	59,142	61,736	予算対応	○	現状維持	縮小
2	本の寺子屋推進事業	図書館	3,870	3,049	予算対応	△	現状維持	縮小
3	市民読書活動推進事業	図書館	1,661	1,849	予算対応	△	拡充	縮小
4	図書館事業諸経費	図書館	156,001	154,468	予算対応	-	-	-
5	古田晁記念館諸経費(施設改修)	図書館	0	1,600	1,046	◎	現状維持	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和3年度 事後評価

<p>施策指標 の 要因分析</p>	<p>・「まちづくりチャレンジ事業を実施し、自立運営している団体数」は、まちづくりチャレンジ事業補助金のトライアル交付団体が新規で3団体、ステップアップ交付団体が2団体で、いずれも自立・継続が見込まれる。「まちづくりフェスティバル」やフリーコミュニティでの市民に向けたNPO活動の情報発信や、「まちチャレセミナー」によるNPO育成支援など協働のまちづくり推進事業を複数の切り口で効果的に推進することにより、NPO活動の自立性と持続性が高まっている。</p> <p>・「市民交流センター貸館利用率」は、市民交流センターの貸館と市民サロンなどの施設利用が、長引く新型コロナウイルス感染拡大の中で、感染症対策のため一部利用制限していたことに加え、団体等の活動が停滞する影響があったことからさらに減少した。</p> <p>・図書館は感染症対策を徹底しながら積極的な運営を行った。「図書館の市民1人当たり貸出冊数」は、確かな情報や本に対するニーズの高まりがプラス要因となり、貸出冊数は過去最高の実績となった。さまざまな調べものに対応するレファレンス機能をさらに充実し周知する必要がある。</p>
<p>施策の 定性評価</p>	<p>・市民交流センターは、地域課題多様化の中で、その解決につながる「知恵の交流を通じた人づくりの場」であるために、進化を求めながら運営してきた。新型コロナという大きな社会的インパクトの中で、情報発信と交流の拠点、地域課題を解決する市民活動の拠点として果たすべき役割は増している。</p> <p>・先行きの不透明感が高まる社会状況のなかで、確かな情報や知識を提供する図書館を中核とした複合施設としての強みを生かし、新たなサービスを生み出し続けることが求められる。ウィズコロナの段階に移行し、図書館サービスへの要求の高まりに対応していく必要がある。</p>

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	市民交流センター、図書館	氏名	上條 史生		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		協働のまちづくり推進事業				担当課	市民交流センター		
目的	対象	市民、市民公益活動団体				施策体系	10-2-1		
	意図	市民及び市民公益活動団体等の主体性・自主性の向上や活動の活性化、市民交流センターでの事業の多様化を目指し、団体の育成や活動の支援を行う。				新規/継続	継続		
手段		講演会、研修会の開催、まちづくりチャレンジ事業実施団体への補助金交付により、市民公益活動団体等の育成、支援を行う。				会計区分	一般		
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度				
	○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援		○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援		○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援				
	○まちづくりチャレンジ事業補助金		○まちづくりチャレンジ事業補助金		○まちづくりチャレンジ事業補助金				
	○中間支援組織による支援		○中間支援組織による支援		○中間支援組織による支援				
○講演会、研修会の開催		○講演会、研修会の開催		○講演会、研修会の開催					
○市民公益活動団体等の情報発信		○市民公益活動団体等の情報発信		○市民公益活動団体等の情報発信					
事業費・財源	決算額 (千円)		2,987	予算額 (千円)		4,477	計画額 (千円) 予算対応		
	市民活動支援業務委託料		1,428	市民活動支援業務委託料		1,436			
	まちづくりチャレンジ事業補助金		660	まちづくりチャレンジ事業補助金		1,600			
	市民営提案事業委託料		660	市民営提案事業委託料		528			
	その他		239	その他		913			
特定		0	一般	2,987	特定	0	一般	4,477	
業務量(人工)		正規	1.52人	会計年度	0.77人	正規	1.52人	会計年度	0.77人

○評価指標

評価指標(単位)	まちづくりチャレンジ事業実施団体数(団体)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		4	6	
実績値(事後評価)	2	5		
目標値		5	6	7
評価指標(単位)	研修会や講座等の開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		9	11	
実績値(事後評価)	11	12		
目標値		10	15	20

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 協働のまちづくり推進委員会による、補助金の執行に関わる審査、評価及び団体の育成支援等を実施した。(審査会、活動現状報告会など3回開催) まちづくりチャレンジ事業補助金の交付及び団体の育成支援を行った。(団体、事業の充実度に応じた段階的交付:5団体 660千円) NPO法人などが団体の活動をPRする場を設けるとともに、市民活動を実践するためのノウハウ等を学ぶための講座を12回開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業補助金の交付を5団体が受け、それぞれの団体独自の事業展開が行われた。 市民活動団体等えんぱーく利用者同士を、交流会を通じてつなぐなど、広く交流を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業など市民活動に関する相談件数は、前年より減少となった。今後は、今まで以上に制度の周知や、活動を希望する団体等の相談の機会を多く設けることで申し込みに繋げ、活動団体の増加及び育成を図る必要がある。 新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインによるセミナーや会議の開催が増えたが、リアル開催とオンライン開催のメリットデメリットを捉えつつ、開催形式を検討していく必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業の相談窓口が市民活動支援係であることや、期間に縛りなくいつでも相談できることを8月広報で周知した。また、他市町村、民間組織、庁内他部署、市民活動団体等との連携を深め、会議を3回実施するなど、ネットワークを強化した。加えて、プレスリリース等を活用した継続的な情報発信によりチャレンジ事業が周知され、上期の相談件数は8件、そのうち7団体(前年度から継続して申請した団体含む)の申し込みにつながった。(1団体は現在休止中) 下半期に向け、まちづくりチャレンジ事業二次募集の申し込みを検討されている団体に対して、適宜フォローアップを行っている。 市民活動団体はコロナ禍の経験を生かして、オンラインだからこそできる遠方の講師によるセミナー開催や、活動の自粛ではなく、感染予防対策を講じながらの活動実施が多くなった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染再拡大の影響により、市民活動団体はイベントや事業を、延期や開催方法の変更をせざるを得ない状況が発生している。まちづくりチャレンジ事業実施団体も同様で、イベントや事業を一部延期した。 まちづくりチャレンジ事業におけるNPO団体等への業務委託について、可能な条件、受託先等、調査研究を重ねていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業の申込件数や委託事業の進捗状況を鑑みて、協働のまちづくり推進事業についての新年度予算は現状維持で継続したい。 まちづくりチャレンジ事業補助金の4年間の活用により、活動が充実・成長した、市民活動団体hana-tomo(公共施設への緑化推進活動や保育園等での花壇づくり、ハンキングバスケット制作や講習会等の実施団体)に、えんぱーく植栽管理業務を委託したい。

第1次評価	提案どおりとする。自立した活動が可能となる団体が出てきているため、今後も各団体への支援を継続すること。								
第2次評価	—								
作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	唐澤 敏樹	連絡先(内線)	4421
最終評価者	市民交流センター長	氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	市民交流センター交流企画事業				担当課	市民交流センター				
目的	対象	市民全体、事業者、各種団体、市外からの来館者				施策体系	10-2-1			
	意図	新しい人々や多くの人々が絶えず行きかう場を創出し、知恵の交流を通じた人づくりを図る。				新規/継続	継続			
手段	5つの重点分野「図書館、子育て支援、青少年交流、シニア活動支援、市民活動支援」を融合した事業を実施する。また、様々な活動のための基盤提供事業を行う。				会計区分	一般				
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施		○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施		○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施					
事業費・財源	決算額	(千円)	18,028	予算額	(千円)	19,516	計画額	(千円)	予算対応	
	IT講座運営事業等委託料		1,500	IT講座運営事業等委託料		1,501				
	市民営提案事業委託料		1,416	市民営提案事業委託料		1,418				
	交流イベント開催委託料		598	中心市街地活性化事業		300				
	その他		14,514	子どもアトリエタウン負担金		300				
	特定	428	一般	17,600	特定	492	一般	19,024	特定	一般
業務量(人工)	正規	1.96人	会計年度	3.98人	正規	1.96人	会計年度	3.98人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	貸館利用者人数(人)				
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)			15,113	19,563	
実績値(事後評価)		36,316	36,622		
目標値			40,000	50,000	60,000
評価指標(単位)	講座等参加者満足度(%)				
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)			98.2	97.8	
実績値(事後評価)		95.5	99.2		
目標値			90.0	90.0	90.0

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果に基づき、希望があった講座を開催している。引き続き、アンケートの実施により市民ニーズの把握を続け、効果的な事業の遂行を図る。 施設の利用者拡大を図るため、国や県、市の新型コロナウイルス感染症大防止策に基づいた施設運営を実施するとともに、事業について様々な媒体を用いて情報発信を行っている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートで高校生など青少年世代からのニーズが少なかったことや、以前行っていた中高生向けイベントでの集客率を鑑み、今年度の青少年交流向けイベントは開催を見送った。代わりに、子育て世代から希望のあった講座や、世代間交流を目的とした講座を新たに実施した。利用者のニーズを把握するとともに分析を行い、実施に繋げていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 交流企画事業はこれまでの経験が蓄積されているため、どの事業も参加者の満足度が高く、引き続き実施していくとともに、新たな企画を積極的に展開していきたい。特にアンケートにより、子育て世代、中高年等から要望のあった交流事業や、世代間交流のできるイベントを検討、実施したい。 市民営提案事業である「こどもしおじり」は、独自性があり一定の評価を得ているため、引き続き委託事業として実施する。 今年度初めて実施する「中心市街地活性化事業」は現在準備段階だが、実行委員会や携わる企業側の反応も良く、成果が見込まれるため、引き続き委託事業として実施していきたい。 窓口職員は会計年度任用職員三種に位置付けし、シフト編成の確保によりサービスの向上を図れているため継続したい。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設機能(ICTルーム)を活用し、暮らしや仕事に役立つ「ばこそん基礎講座」を22講座28回実施した。 ビジネス支援や子育て支援・青少年交流など、多様な内容による講座や講演会を実施し、5つの重点分野を融合した事業を9事業16回開催した。 市民営提案事業による交流企画事業こどもだけの街「こどもしおじり」は、規模縮小等コロナ対策を講じ2年ぶりに対面開催した。 センターの貸館業務や証明書交付等に際し、丁寧な対応を心掛けた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの講座や講演会、また大人数の集まるイベントについては、規模縮小若しくは中止としたが、年間で延べ2,550人の参加があり、機会が減る中でも交流を通じた新たな知恵の創造につながることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、可能な限り事業を開催するとともに、引き続きアンケート等の実施により市民ニーズを捉えた内容での講座を再検討し、より効果的に事業を実施していく必要がある。 新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底しながら、徐々に貸館利用者の拡大につながるよう、案内を行っていく必要がある。

第1次評価	提案どおりとする。									
第2次評価	—									
作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	井原 大輔	連絡先(内線)	4251	
最終評価者	市民交流センター長	氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか			

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	市民交流センター管理諸経費(施設改修)				担当課	市民交流センター									
目的	対象	市民交流センターの利用者				施策体系	10-2-1								
	意図	利便性や満足度の向上と施設機能の適切な確保を図る。				新規/継続	継続								
手段	施設(共用部分を含む)の警備・清掃・駐車場整理業務にかかる維持管理の実施				会計区分	一般									
					個別施設計画	○									
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度						
	○空調機法定点検 ○消防設備整備 ○防水塗装工事 ○自動ドア整備(センサー) ○飛散防止フィルム張替 ○電話交換機取替工事 ○その他修繕				○館内監視用システム整備 ○ロスナイフィルター交換 ○建物西面外壁シール工事 ○衛生ポンプ整備 ○自動ドア整備 ○飛散防止フィルム張替 ○その他修繕				○建物東・南面外壁シール工事 ○音響・映像設備改修 ○その他修繕						
事業費・財源	決算額 (千円)		20,966		予算額 (千円)		22,610		計画額 (千円)		66,000				
	施設改修		20,966		施設改修		22,610		外壁改修工事(南・東面)		19,195				
									その他修理(小破修繕)		1,837				
										音響・映像設備改修		2,420			
												エネルギー消費最適化設計		42,548	
		特定	17,100	一般	3,866	特定	16,100	一般	6,510	特定	59,700	一般	6,300		
業務量(人工)	正規	0.99人	会計年度	0.80人	正規	0.99人	会計年度	0.80人	正規		会計年度				

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長期修繕計画について、現状に沿った修繕計画への見直しを進めている。 ・省エネルギー化を反映する機器設備の導入については、省エネ診断を受診しながら研究を行うとともに、機器導入の基礎となる定性的なデータの収集を進めている。 ・設備機器の経年劣化による突発的な不具合の発生に対して、施設の運営への著しい支障をきたさないように弾力的な対応を行っている。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー機器(照明のLED化、高効率エアコン設置、太陽光発電設置)設置工事では、一定期間の閉館が見込まれる。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・当面必要な施設の長寿命化のための改修等について見直しを行い、施設全体のエネルギー消費最適化の観点から、照明のLED化及び高機能エアコンへの機器更新を計画的に行いたい。 ・上記事業は、「地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業」(環境省補助金)の充当を予定しているが、太陽光発電設備の設置、また、設計施工含めR7年度までの終了が条件であるため、R5年度中に基本設計・実施設計を行い、R6年度に施工をしたい。 ・工事中の閉館期間については、利用者への利便を損なう範囲を最小限とするよう研究調整し、設計の中で施工計画に落とし込んでいく必要がある。

第1次査定 要求どおりとする。

第2次査定 —

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主査	石井 健郎	連絡先(内線)	4253
最終評価者	市民交流センター長	氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか	

○評価指標

評価指標(単位)	えんぱーく来館者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	219,015	210,102	
実績値(事後評価)	500,810		
目標値	670,000	670,000	670,000

○事中評価

評価視点	有効性	1	低い	今後の方向性	①
	効率性	1	低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長期修繕計画で予定していた屋上防水改修工事を実施した。 ・過半数が未点灯となっていた各コートのスポットライト修繕を実施した。 ・空調機器等の突発的な故障の修繕を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症に関して、施設側として対策を講じるとともに、利用者にも「新しい生活様式」に基づいた行動や消毒等の協力をお願いし、館内でクラスターが発生しないよう徹底した対策を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・機器等の突発的な不具合発生の都度、迅速に対応したことにより、利用者の利便性、快適性を損なうことなく施設・設備の維持・管理を行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・長期修繕計画に基づく修繕計画から、現状に見合う修繕計画への見直しが必要である。 ・省エネルギー化を反映する機器設備導入に向けた研究が必要である。 ・閉館から12年以上が経過し、多くの設備機器類で更新等のタイミングを迎え、また、部品交換についても交換部品の欠品などが始めている。時間経過に伴い、機器類の突発的な不具合は、今後さらに頻発することが想定される。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	図書館サービス基盤整備事業				担当課	図書館						
目的	対象	市民と市外の人、団体、企業				施策体系	10-2-2					
	意図	図書館資料の充実と活用。図書館システムによる安定的な運営				新規/継続	継続					
手段	図書等の購入をする。資料等データの整備を行う。図書館システムを活用したサービス提供を行う。				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○図書館電算機器使用料 ○図書館システム更新 ○図書データ整備 ○情報資料の購入				○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入				○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入			
事業費・財源	決算額	(千円)	59,142	予算額	(千円)	61,736	計画額	(千円)	予算対応			
	図書館システム使用料		16,179	電算機器リース料		21,327						
	図書データ作成委託料		1,221	図書データ作成委託料		1,884						
	図書購入費		29,999	図書購入費		30,000						
	その他		11,743	電子図書館協働運営事業負担金		246						
	特定	25	一般	59,117	特定	3,160	一般	58,576	特定		一般	
業務量(人工)	正規	1.15人	会計年度	4.77人	正規	1.15人	会計年度	4.77人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	蔵書数(冊)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		505,405	509,795		
実績値(事後評価)	503,697	505,820			
目標値		515,000	530,000	545,000	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の 方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 市民の様々なニーズに対応するため、資料の購入と古い資料の除籍を進め、寄贈された資料の登録も行った。 図書のマーク(書誌情報データ)等の作成委託や、RPAを活用した図書の登録を行うことで作業の効率化を図った。 新図書館システム(ELCIELO)を活用した古田晁記念館収蔵品のデジタルアーカイブ化に向け、画像やデータの仮登録と利用しやすい登録方法の検討を行っている。 市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」の導入をし、市町村と県の導入チームの中でも中心的な役割を果たしている。また、市民の利用拡大のため、積極的な広報と利用者登録を行っている。 新図書館を開館する大桑村と公共図書館システムの共同利用の取り決めを行い、大桑村から市に年間994千円の利用料が支払われることになった。貴舟大桑村長、小口塩尻市長による協定への調印式を通じ、県内図書館に向けたPRになった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」が8月にスタートした。市内の電子図書館未登録者に向けた積極的な周知と登録率の向上を図る必要がある。 図書館システムを共同利用する大桑村図書館が9月末に開館するため、システム利用がスムーズにできるよう連携していく必要がある。 古田晁記念館の収蔵資料をデジタルアーカイブ化し、図書館システムに登録していく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズに対応できる資料・情報のさらなる充実と、提供する職員の資質向上の必要がある。 古田晁記念館の収蔵資料のデジタルアーカイブ化と図書館システムへの登録を行うために、必要な知識の習得や経験のある職員が必要である。

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズに対応するため、資料購入と情報の古い資料の除籍を進めた。 図書のマーク(書誌情報データ)等の作成委託を行い、図書館システムでの迅速な資料検索と提供を行った。 図書館システムの機能要件の検討や業者の選定を進め、新システムへの移行を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 図書館資料の充実で、市民の課題に対応するための情報提供基盤が整備された。 図書データの作成委託でシステムへの資料登録を効率的に行い、RPAの導入により、職員の単純作業の効率化を行った。 図書館システムの更新により、利用者機能の向上と職員の業務効率化を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 様々なニーズに対応できる資料・情報のさらなる充実と、提供する職員の資質向上の必要がある。 利用しやすい書架づくりのため、適正な除架と除籍による資料整備を進める必要がある。 図書館システムを活用した、地域資料(古田晁記念館資料)のデジタルアーカイブ化などを実施する必要がある。

第1次評価	提案どおりとする。											
第2次評価	—											
作成担当者	生涯学習部 図書館				職名	主任		氏名	矢ヶ崎 文		連絡先(内線)	4243
最終評価者	図書館長			氏名	上條 史生		担当係長	副館長		氏名	宇治橋 多恵	

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	本の寺子屋推進事業				担当課	図書館						
目的	対象	市民と市外の人、団体、企業				施策体系	10-2-2					
	意図	市民や市外居住の人に向け文化的な体験機会を創出し、生涯学習の場を提供するとともに、本市の取り組みを広く周知する。				新規/継続	継続					
手段	講演会やワークショップ、見学会の開催。企画展示の開催。				会計区分	一般						
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○本の寺子屋講演会開校10周年 ○本の寺子屋講演会書籍出版 ○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○企画展示				○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示				○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示			
事業費・財源	決算額 (千円)		3,870	予算額 (千円)		3,049	計画額 (千円) 予算対応					
	講師謝礼		1,184	講師謝礼		1,554						
	書籍出版委託料		1,700	費用弁償		529						
	費用弁償		246	印刷製本費用		424						
	印刷製本費用		435	その他		542						
	その他		305									
特定		691	一般	3,179	特定	458	一般	2,591	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.72人	会計年度	1.57人	正規	0.72人	会計年度	1.57人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	講演会・トークショー・企画展示開催数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		7	12		
実績値(事後評価)	13	18			
目標値		18	18	18	
評価指標(単位)	参加満足度(%)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		86.0	91.9		
実績値(事後評価)	89.0	94.8			
目標値		90.0	90.0	90.0	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	⑥
	有効性	3	やや高い		
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、講演会12回、企画展示6回と当初の計画に近い形で開催した。しかしながら、感染拡大を受け、レザンホールで予定していた「小泉今日子氏講演会」、えんぱーく多目的ホールで予定していた「上野千鶴子講演会」が延期となった。 昨年度に引き続き、図書館職員や学校職員向けといった職員研修の側面が強い2回の講演会については、リモート配信を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示では、株式会社エイアンドエフ社の協力を得て、包括連携協定のもと事業を具体化し、実施することで、効果的なPRができた。 養老孟司氏講演会では、レザンホール大ホールに市民を中心に約560人を招き、図書館開館50周年記念事業として開催した。初めての参加者も多く本事業を多くの人にPRすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 講演会事業では、50代以降の参加者が多く、20代から30代までの世代の割合が低い。全ての世代が魅力的と感じる講座づくりを、年間を通して検討していく必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示事業では、Instagramで特に10代～40代に人気で新進気鋭の葉っぱ切り絵作家の作品の現物を展示した。葉っぱ切り絵作家の展示は、大手デパート等で行っているが、公共施設では初の開催だった。日常生活において図書館やえんぱーくに訪れたことのない若い世代に来館のきっかけを提供できた。 信州しおじり子ども本の寺子屋事業は、第一線で活躍している講師を迎えるとともに、落語という初のジャンルを取り入れるなど、チャレンジの要素を入れ込みながら、10代以下が魅力を感じるプログラム構成を意識した。 昨年、新型コロナウイルスの感染拡大のため開催を延期した小泉今日子氏講演会を、レザンホール大ホールで会場を満員にして開催することができた。小泉氏講演会への参加者は、特に40代より若い世代で、初めて信州しおじり本の寺子屋講演会に参加した市民が多かった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて参加のある50代以上のリピーターが事業を支えている側面があるが、20代から40代の図書館利用が日常的にない市民に対し、まずは1回参加してみたいと思える講座づくり、PRの方法を検討していく必要がある。 さらに、一度参加した市民が、継続して参加したくなるような魅力のある講座を行っていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 新年度の本の寺子屋講演会事業は、10周年記念として実施した小泉氏講演会に係る予算を除いた、例年通りの予算規模で運営していきたい。 10代以下を対象とした子ども本の寺子屋事業は、大人向け事業と比べ低予算で運営を行っているため、若い世代から図書館利用を習慣化することを目的に拡充していきたい。

第1次評価	・提案どおりとする。													
第2次評価	—													
作成担当者	生涯学習部			図書館			職名	主任		氏名	藤牧 晃平		連絡先(内線)	4241
最終評価者	図書館長			氏名	上條 史生			担当係長	副館長		氏名	宇治橋 多恵		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	市民読書活動推進事業				担当課	図書館						
目的	対象	乳幼児から高齢者までの市民、団体				施策体系	10-2-2					
	意図	幼児・児童の読書活動を推進するとともに、ボランティアを育成する。				新規/継続	継続					
手段	・乳幼児・児童の読書環境充実 ・ボランティア育成と活動基盤の提供 ・学校との連携による講座開催 ・絵本プレゼント				会計区分	一般						
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○PTAとの協働による親子読書活動の再構築 ○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施				○PTAとの協働による親子読書活動で購入した図書の活用方法を検討 ○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施				○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施			
事業費・財源	決算額	(千円)	1,661	予算額	(千円)	1,849	計画額	(千円)	予算対応			
	消耗品費		1,179	消耗品費		1,198						
	印刷製本費		212	印刷製本費		150						
	PTA親子文庫活動補助金		200	PTA親子文庫活動補助金		200						
	市民読書グループ活動補助金		70	市民読書グループ活動補助金		70						
	特定	0	一般	1,661	特定	0	一般	1,849	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.32人	会計年度	1.12人	正規	0.32人	会計年度	1.12人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	PTA親子文庫蔵書数(冊)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		8,245	8,493		
実績値(事後評価)	8,245	8,493			
目標値		8,100	8,250	8,400	
評価指標(単位)	おはなし会実施数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		-	58		
実績値(事後評価)	-	-			
目標値		-	120	120	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	④
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・絵本プレゼント事業を通じて、家庭での読書環境の充実に努めた。 ・読書活動グループの内部研修会や交流会を開催し、ボランティアの育成に努めた。 ・第3次子ども読書活動推進計画概要版の作成及び配布を行った。
成果	・絵本プレゼント事業では、ほぼ全ての対象者に絵本を配布し、家庭での読み聞かせによるふれあいの機会を提供するなど、乳幼児期からの読書環境の整備を行った。 ・感染症の影響もあったが、時間や内容を工夫しながら可能な限りおはなし会を実施した。
課題	・家庭での読書環境の充実のため、サードブックの導入を検討する必要がある。 ・PTA親子文庫が令和4年度末で活動を終了することに伴い、親子文庫図書の活用方法を検討する必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・サードブックについては、配布対象や導入方法も含め実現に向けて検討を進めている。 ・PTA親子文庫図書は、市立図書館で保管していた蔵書を各小学校に配布し、学級文庫や学校図書館の蔵書等として活用してもらうよう準備を進めている。 ・PTA親子文庫活動終了後の学校における読書活動の推進と支援体制について、教育総務課と連携し検討を行っている。
当年度生じた新たな問題等	・年度当初に新たな読書活動グループの登録があった反面、新型コロナウイルスの影響による読み聞かせの機会の減少等で、読書活動グループ連絡会の休会や退会を検討する団体が増えている。各団体の継続的な活動をどのように支援していくかを考えていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・家庭における読書環境の充実のため、ファーストブックとセカンドブックの絵本プレゼント事業を継続実施する。 ・読書離れが進む中学生への読書活動推進の一環として、中学校図書館と連携し「ビブリオバトル」のような、本や読書への興味を引き出す取り組みを行う。 ・読書活動グループ連絡会については、新たな団体の育成及び既存団体への支援を充実する方策を検討していく。

第1次評価	・提案どおりとする。											
第2次評価	—											

作成担当者	生涯学習部			図書館			職名	主任			氏名	小松 久美		連絡先(内線)	4106	
最終評価者	図書館長			氏名	上條 史生			担当係長	副館長			氏名	宇治橋 多恵			

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		古田晃記念館諸経費(施設改修)				担当課	図書館	
目的	対象	市民、市外からの来館者				施策体系	10-2-2	
	意図	耐震改修が未実施の施設について、精密診断及び耐震改修を検討する。				新規/継続	新規	
手段	既存の施設について耐震診断を実施し、その結果に基づき耐震改修工事等を行う					会計区分	一般	
						個別施設計画		
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度			
	○古田晃記念館(主屋)耐震診断及び改修計画策定		○古田晃記念館耐震診断委託及び耐震補強・施設改修等の方向性を検討		○古田晃記念館耐震施設改修の内容検討及び調整			
事業費・財源	決算額 (千円)	0	予算額 (千円)	1,600	計画額 (千円)	1,046		
	耐震診断委託料	0	耐震診断委託料	1,600	主屋耐震診断委託料	1,046		
	特定	0	一般	0	特定	0	一般	1,046
業務量(人工)	正規	0.13人	会計年度	0.10人	正規	0.20人	会計年度	0.10人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 登録有形文化財の保存活用の助言を仰ぐため、文化財課・公共施設マネジメント課の担当職員と共に文化庁へ出向き、施設の維持や補助金等について具体的に助言を得ることができた。 公共施設マネジメント課の協力のもと、展示棟・渡り廊下・門の耐震診断業務の入札を行い、業者が決定した。耐震診断を行い今後の保存活用について検討していく。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 展示棟(土蔵)と渡り廊下は文化財としての価値を維持しながら耐震改修を行うのは困難という報告があった。主屋の耐震診断を行い、主屋に展示棟としての機能を移すための耐震等改修や展示品の移設活用方法を検討していく必要がある。 登録有形文化財等の工事に係る補助金は枠が少なく多くの施設が申請しているため、補助金を交付してもらえる可能性が低いことが判明した。今後の耐震改修に向けて財源の確保を検討する必要がある。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> 古田晃記念館を継続的に保存活用していくため、展示棟と渡り廊下の施設維持のための耐震改修設計、主屋の耐震診断と展示棟への活用を含めた耐震・改修設計をするための予算が必要になる。

第1次査定	<ul style="list-style-type: none"> 主屋の耐震診断を行い、その結果を踏まえて今後の改修等について方向性を決めることとする。景観や企画展示などのソフト面でも活用方法をR5年度に決定すること。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主事	氏名	中野 友美	連絡先(内線)	4243
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史生	担当係長	副館長	氏名	宇治橋 多恵	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	137	161	
実績値(事後評価)	314		
目標値	250	250	250

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	③
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 主屋の耐震診断実施に向けて事業を進めていたところ、「登録有形文化財である展示棟の保存・活用をしていくことが必要」との結論となり、主屋の耐震診断は実施しなかった。 今後も施設開放をしていくために、展示棟(土蔵)の耐震診断を実施するための予算確保等を進めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 主屋だけでなく、展示棟も耐震診断が必要になることから、公共施設マネジメント課の協力のもと、次年度実施に向けて予算化することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 「土蔵」という特殊な建築物であるため高い専門性が求められることから、文化財課及び公共施設マネジメント課の協力が必要になる。また、請負可能な設計業者の選定に加えて土蔵建築に精通した有識者の助言を仰ぐ必要がある。 耐震診断後の施設活用について検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		体育施設整備事業				担当課	社会教育スポーツ課						
目的	対象	体育施設利用者				施策体系	その他						
	意図	市民に安全で快適なスポーツ環境を提供するため、既存施設の耐震性及び長寿命化を図る。				新規/継続	継続						
手段	・施設の安全対策を行う。 ・老朽化が進む体育施設の維持を目的とした改修を行う。					会計区分	一般						
						個別施設計画	○						
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度						
	○体育施設トイレ洋式化改修工事			○中央スポーツ公園管理棟改修 ○テニスコート整備 ○共用倉庫改修 ○野球場調査委託			○体育施設修繕 (営繕修繕料で対応)						
事業費・財源	決算額 (千円)		4,290	予算額 (千円)		134,020	計画額 (千円)				-		
	改修工事		4,290	管理棟改修工事		6,270							
				テニスコート整備設計委託料		4,500							
				テニスコート整備工事費		115,500							
				共用倉庫改修		5,700							
			その他		2,050								
		特定	0	一般	4,290	特定	114,000	一般	20,020	特定		一般	
業務量(人工)		正規	0.12人	会計年度	0.35人	正規		会計年度		正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・日の出保育園、塩尻児童館及び中央スポーツ公園の一体的な整備が協議されてきたが、既存クレートテニスコート(5面)に園舎などの増築・駐車場の整備を行い、西テニスコート南側に新たに4面の人工芝コートの新設することとなった。現在、プレファブ小屋の撤去を行い、来春稼働に間に合うようテニスコート増設工事を進めている。
当年度に生じた新たな問題等	・施工業者が決定し計画的に工事が進められるが、資材の高騰などによる工期の遅延が心配される。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・利用者の声を聞き、利用しやすいスポーツ施設の整備を進めていく。 ・市営野球場のあり方について、利用団体の意見聴取を進めるとともに、広く市民の意見を聴き、六次総での取り組み内容を検討する。

第1次査定 ・要求どおりとする。

第2次査定

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名		氏名		連絡先(内線)	
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行	

○評価指標

評価指標(単位)	スポーツ施設利用者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	114,102	131,061	
実績値(事後評価)	386,292		
目標値	310,000	320,000	325,000

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	⑤
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	現状維持

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	・市内体育施設5施設、12箇所のトイレ洋式化の改修工事を行った。
成果	・利用者の少ない期間に工期を設定し、施工業者と連絡を密にし利用者へ不便をかけることなく施工・竣工した。 ・トイレ改修に合わせ、老朽化により立て付けが悪くなった扉などの改修も行った。
課題	・樹木の根の成長による排水管の破損など、トイレ詰まりが頻繁に起こる箇所が発生している。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		生涯学習部トイレ改修事業				担当課	社会教育スポーツ課			
目的	対象	市民				施策体系	その他			
	意図	市民に快適な施設環境を提供するため。				新規/継続	継続			
手段	生涯学習部が所管する施設のトイレを洋式化するため、計画的な改修・整備を図る。					会計区分	一般			
						個別施設計画	○			
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
				○施設トイレ改修工事			○施設トイレ改修工事 (総合文化センター)			
事業費・財源	決算額 (千円)		予算額 (千円)		4,576	計画額 (千円)		5,000		
			改修工事		4,576	改修工事		5,000		
	特定	一般	特定	0	一般	4,576	特定	0	一般	5,000
業務量(人工)	正規	会計年度	正規	0.17人	会計年度	0.00人	正規	会計年度		

○評価指標

評価指標(単位)	トイレ改修・整備数(基)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	-	2	
実績値(事後評価)	-		
目標値	-	3	3

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和3年度 事後評価

取組内容	令和3年度は、体育施設の整備に合わせてトイレ改修を行った。成果等は体育施設整備事業のシートに記載。
成果	-
課題	-

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	-
当年度に生じた新たな問題等	・トイレ3基を洋式化する予定であったが、工事費高騰により2基を改修することとなった。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・改修箇所数の見直しがあったが、今後も要望の多いところから計画的に施設のトイレ洋式化を進めていく。

第1次査定	・要求どおりとする。
第2次査定	-

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	大塩 弘嗣